

Clavinova®

CVP-45 取扱説明書 (応用編)

もくじ		ページ
・各部の名称とはたらき		1
1.	音色と効果について	7
	・各音色の推奨音域	7
	・打楽器(キーボード・パーカッション)について	9
	・ペダルを使う	10
	・リバーブの深さを変える	11
	・2つの音色を混ぜる(デュアル機能)	12
	・2つの音色を選んで弾く(スプリット機能)	13
	・音程を変える(トランスポーズ)	15
2.	自動伴奏(ピアノABC)で楽しもう	16
	・リズムスタイルを選ぶ	16
	・自動伴奏(ピアノABC)モードにする	17
	・リズムの速さを指定する	17
	・音色を指定する	18
	・音量(ボリューム)について	18
	・スタートのパターン選択	19
	・演奏をスタートさせる	20
	・フィルインを入れる	21
	・演奏をストップさせる	21
	・フルキーボードABCで演奏	22
	・転回テクニックで楽々演奏	23
3.	ソロスタイルで楽しもう	24
	・ソロスタイルプレイモードにする	24
	・スタイルを選ぶ	24
	・スタイルを変更する	24
	・演奏をスタートさせる	25
	・演奏をストップさせる	25
4.	演奏を録音/再生する(パフォーマンスメモリー)	26
	・演奏を録音する	26
	・トラック1に録音する	26
	・トラック2に録音する	28
	・トラック3に録音する	28
	・演奏を再生させる	29
	・記録内容について	30
	・多重録音について	30
	・ピアノABC録音をする	31
5.	その他の機能	32
	・他の楽器と音程を合わせる(ピッチコントロール)	32
	・タッチの感度を変える	33
	・他の機器と接続する	34
6.	MIDI機能でステップアップ	35
	・MIDIとは?	35
	・CVP-45のMIDI端子	35
	・MIDIでできること	35
	・MIDI関係の設定・機能	37
	・MIDIインプリメンテーションチャート	42
7.	資料	43
	・CVP-45の組み立て方	43
	・楽譜(いとしのエリー)	45
	・楽譜の読み方	47
	・仕様	48
	・オプション(別売品)のご紹介	49
	・発音数一覧表	49
	・おかしいな?と思ったら	50
	・アフターサービスと保証	51

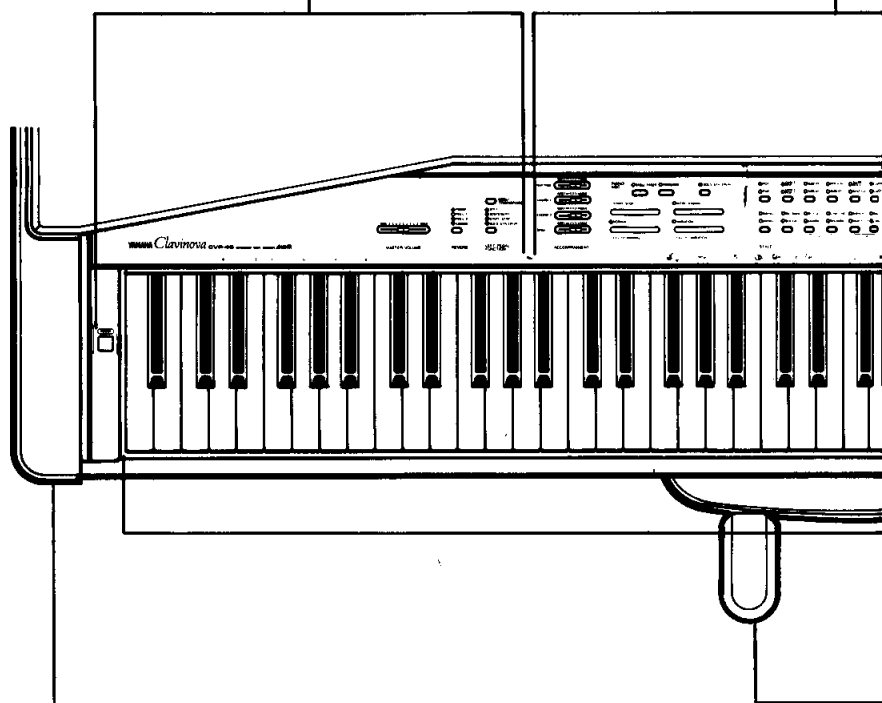
●各部の名称とはたらき

A. 基本操作部

- ①パワー(電源)スイッチ(→基本編5ページ)
- ②マスターボリューム(音量調節)(→基本編5ページ)
- ③リバーブ(残響)ボタン(→基本編12ページ)
- ④レフトペダルファンクションボタン(→10ページ)
- ⑤MIDI/トランスポーズ(移調)ボタン(→15、37~41ページ)

B. リズムスタイル部

- ⑥リズムボリューム(→18ページ)
- ⑦コード1,2ボリューム(→18ページ)
- ⑧ベースボリューム(→18ページ)
- ⑨ピアノABCボタン(→17、22、31ページ)
- ⑩ソロスタイルプレイボタン(→24ページ)
- ⑪スタート/ストップボタン(→20、21ページ)
- ⑫イントロ/エンディングボタン(→19、21ページ)
- ⑬フィル トウ ノーマルボタン、
フィル トウ バリエーションボタン(→21ページ)
- ⑭スタイルボタン(→16、24ページ)
- ⑮ビート(拍子)ランプ(→20ページ)
- ⑯テンポ表示器(→17ページ)
- ⑰テンポボタン(→17ページ)



⑳ヘッドホン端子(→49ページ)

ヘッドホンを接続する端子です。

ヘッドホンを使うと、CVP-45のスピーカーからは音が出なくなりますから、夜間でも周りに迷惑をかけることはありません。

操作を間違えた時は、もう一度
最初の手順からやり直してください。

CVP-45は、各機能のグループごとにパネル上のボタンが別れています。ここではそのグループごとに説明します。

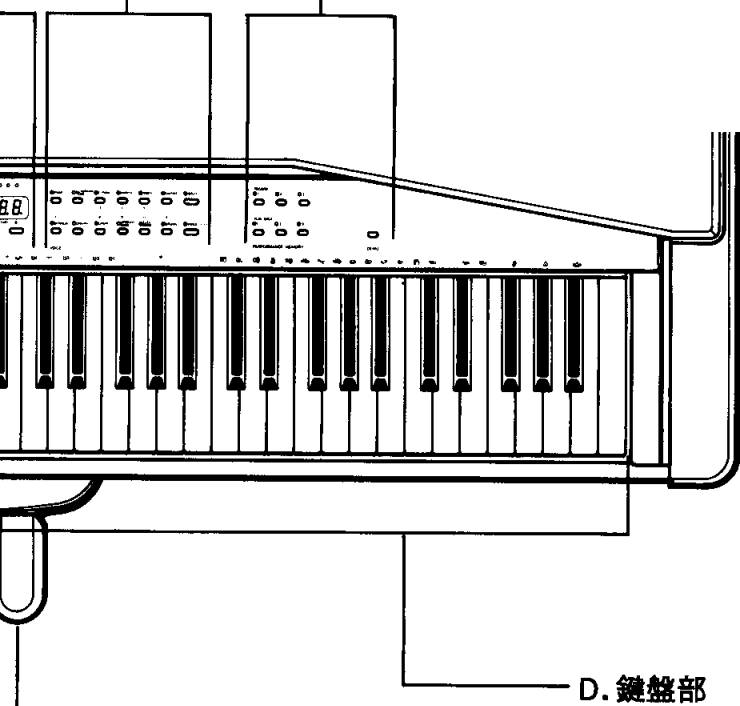
→マークの応用編のページでくわしく説明してあります。

C. 音色部

- ⑱ボイス(音色)ボタン(→9、12、13、18ページ)
- ⑲スプリットボタン(→13ページ)

F. その他

- ⑳パフォーマンスメモリーボタン(→26~31ページ)
- ㉑デモボタン(→基本編7ページ)



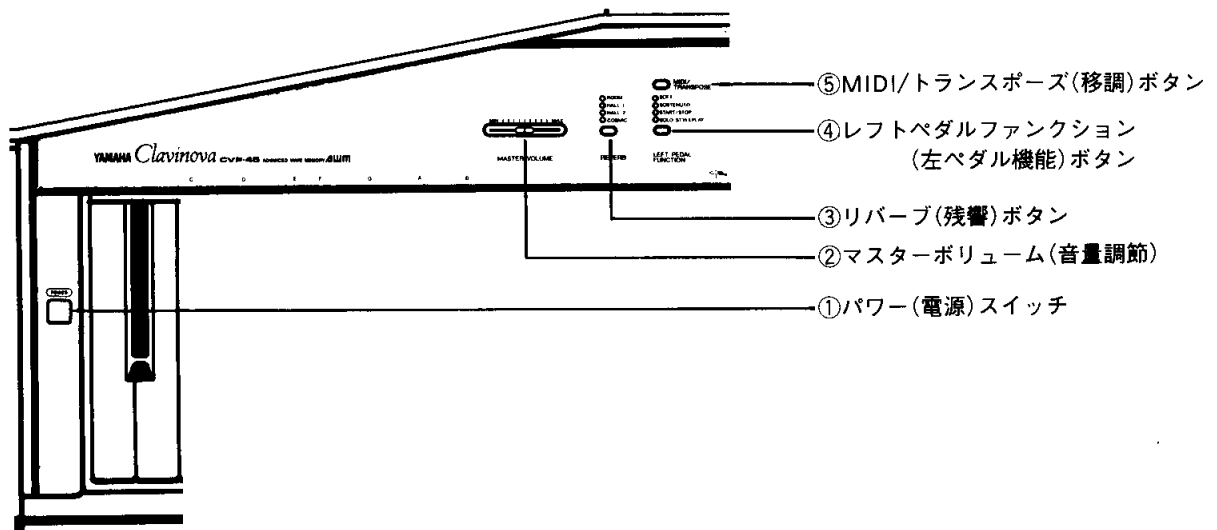
D. 鍵盤部

- ㉒ドラム音色使用時用鍵盤(→9ページ)
- ㉓低音側鍵盤(→13、17、20、25ページ)

E. ペダル部

- ㉔レフトペダル(→基本編11ページ)
- ㉕ダンパーペダル(→基本編11ページ)

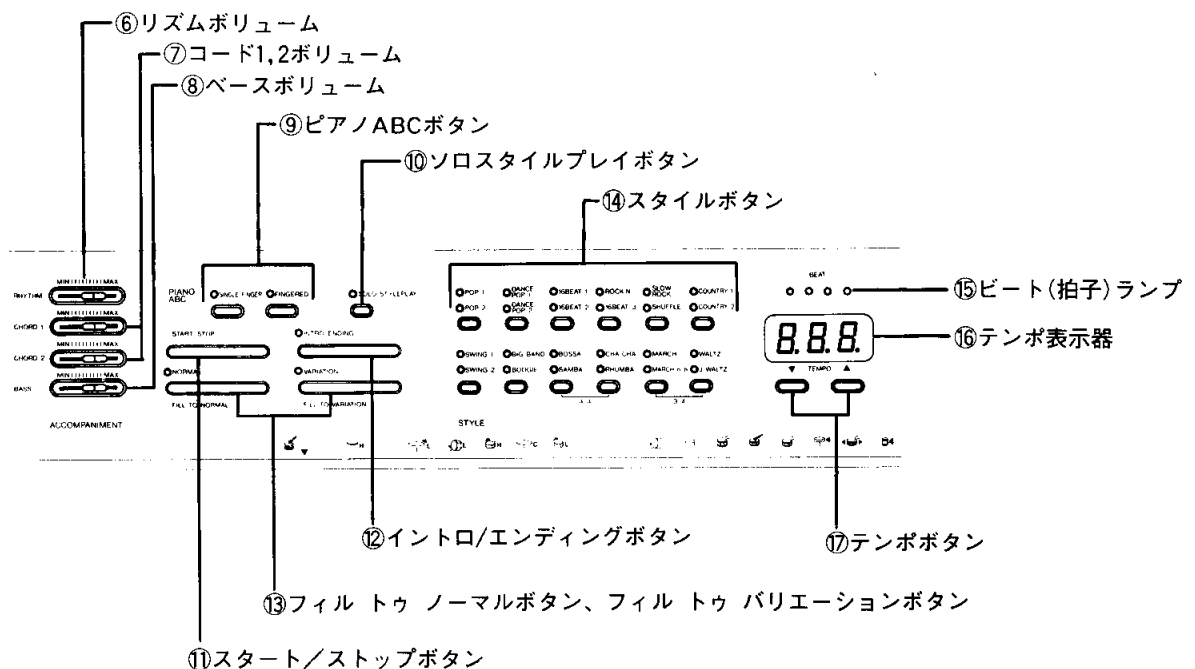
A. 基本操作部



- ①パワー(電源)スイッチ(→基本編5ページ)
電源を入れたり、切ったりするスイッチです。
- ②マスターボリューム(音量調節)(→基本編5ページ)
全体の音量を調節するレバーです。右の方にずらすほど音が大きくなり、左端では音が出なくなります。
- ③リバーブ(残響)ボタン(→基本編12ページ)
リバーブをかけることができます。リバーブをかけると、音の響きが豊かになります。
4種類の中から好みの響きを選ぶことができます。

- ④レフトペダルファンクション(左ペダル機能)ボタン(→10ページ)
左ペダルの機能を切り替えるボタンです。電源スイッチを入れた時はソフトペダルとして機能するようになっています。
- ⑤MIDI/トランスポーズ(移調)ボタン(→15、37~41ページ)
MIDI(ミディ)機能の設定をする時や、トランスポーズ(移調)の設定をする時に使用します。
また、他のボタンと組み合わせることで、さまざまな機能の設定をすることができます。

B. リズムスタイル部



⑥リズムボリューム(→18ページ)

リズム音の音量を調節するレバーです。右にずらすほど音が大きくなります。

⑦コード1,2ボリューム(→18ページ)

基本的に、コード音の音量を調節するレバーです。右にずらすほど音が大きくなります。

基本的に、コード1のボリュームではリズム的なコード音の音量を調節でき、コード2のボリュームではメロディー的なコード音の音量を調節できます。

⑧ベースボリューム(→18ページ)

基本的に、ベース音の音量を調節するレバーです。右にずらすほど音が大きくなります。

また、MIDI/トランスポートボタンを押しながら、このレバーを操作すると、手弾き音の音量を調節することができます。

⑨ピアノABCボタン(→17、22、31ページ)

リズム、コード、ベースによる自動伴奏をさせる時に使用するボタンです。シングルフィンガーボタンを押してランプを点灯させると指1本で、フィンガードボタンを押してランプを点灯させると普通のコードの押さえ方で、自動伴奏させることができます。シングルフィンガーボタンとフィンガードボタンを同時に押して2つのランプを点灯させると、ピアノ奏法で自動伴奏させることができるフルキーボードABCモードになります。

※ABCはオートベースコードの略です。

⑩ソロスタイルプレイボタン(→24ページ)

このボタンを押すと、それぞれのリズムスタイルに合わせた各パートの音色・リズム・ピアノABCが自動的にセットされます。

あれこれとボタンを押してアンサンブルの設定をしなくても、瞬時にセットアップして演奏できる機能です。

⑪スタート/ストップボタン(→20、21ページ)

リズムやピアノABCをスタートまたは停止させる時に押します。

また、パフォーマンスメモリーを使う時にも使用します。

⑫イントロ/エンディングボタン(→19、21ページ)

イントロのパターンでリズムをスタートさせたり、エンディングのパターンでリズムを停止させる時に押します。

⑬フィル トウ ノーマルボタン、

フィル トウ バリエーションボタン(→21ページ)
リズムやピアノABCにフィルインのパターンを入れる時に押します。2つのボタンのフィルインパターンは異なります。

なお、フィルイン後のパターンも異なり、ノーマルでは普通のパターン、バリエーションでは盛り上がり(サビ)のパターンになります。また、フィルインおよびバリエーションパターンは、サビだけに限らず、最初から使ってもかまいません。

※フィルは、メロディーラインの空白部分などを装飾するリズムパターンのことです。

⑭スタイルボタン(→16、24ページ)

内蔵リズムの24種類の中から、リズムスタイルを選ぶことができます。また、4/4または3/4拍子のメトロノームを選ぶこともできます。

⑮ビート(拍子)ランプ(→20ページ)

拍子を目で確認できます。1番左が1拍目で赤色点灯、2,3,4番目が2,3,4拍目で緑色点灯します。

⑯テンポ表示器(→17ページ)

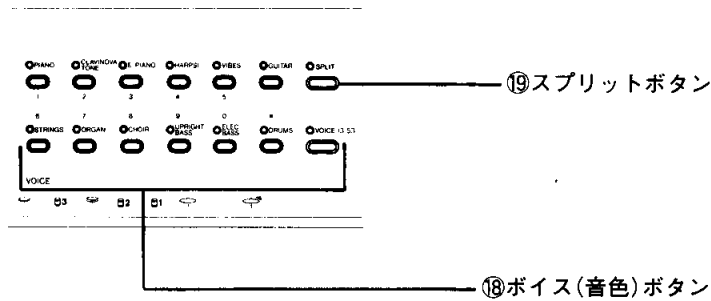
リズム停止時とテンポ調節時にはリズムの速さ(テンポ)を表示し、リズムスタート後はリズムをスタートさせてからの小節数を表示します。また、音色番号13~53の番号表示もします。

その他、様々な設定の表示をします。

⑰テンポボタン(→17ページ)

リズムの速さ(テンポ)を調節できます。右側のボタン▲を押すと速くなり、左側のボタン▼を押すと遅くなります。また、13~53いずれかの音色を選ぶ時にも使用します。このボタンは、普通に押すと1ステップずつ変化しますが、強く押すと速いスピードで変化するようになっています。

C. 音色部



⑱ ボイス(音色)ボタン(→9、12、13、18ページ)

演奏に使う音色を選ぶことができます。

ボイスボタン上に表示されているのは12種類の音色だけですが、音色番号13～53の音色を選ぶこともできます。

選んだ音色のランプが点灯しますが、音色番号13以降の音色を選んだ時は、ボイス13-53ボタンのランプが点灯します。

なお、ドラムスを選んだ場合には41種類の打楽器音を使って、自分でリズムパートを演奏することができます。(ドラムスにした時の各鍵盤への打楽器の割付が、鍵盤上部にイラストで示されています。)

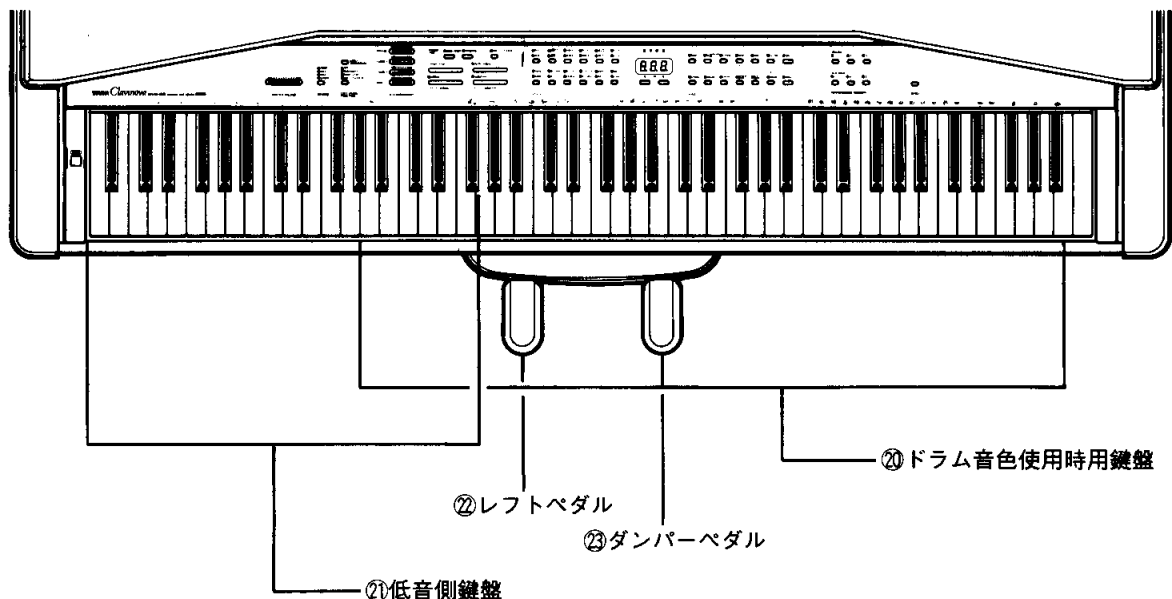
また、1～0までの音色ボタンは、音色を選ぶ時などの数字ボタンの役割もします。

⑲ スプリットボタン(→13ページ)

低音部を高音部と異なった音色で鳴らしたい時にオンにします。低音部の音色は、このボタンを押しながらか、希望する音色のボタンを押して指定します。低音部と高音部の境(低音部の上限)は、このボタンを押しながらか、境にしたい鍵盤を押すことにより変更できます。

D. 鍵盤部

E. ペダル部



⑳ドラム音色使用時用鍵盤(→9ページ)

ドラムスの音色を指定すると、自分でリズムパートを演奏することができます。これらの各鍵盤に41種類の打楽器音が割り付けられており、鍵盤上部にイラストで表示されています。

㉑低音側鍵盤(→13、17、20、25ページ)

電源を入れた時は、F[#]₂より左側の鍵盤が低音側鍵盤になります。

ピアノABCやスプリット演奏など、低音部の音色が高音部と異なる場合のみ関係します。低音部と高音部の境界線(スプリットポジションといいます)は、電源を入れた時はF[#]₂ですが、自由に位置を変更できます。その位置から左側の鍵盤が、低音側鍵盤となります。

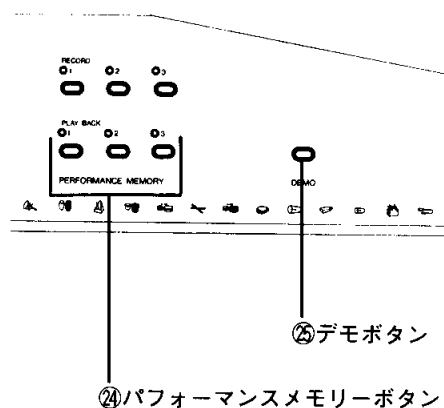
㉒レフトペダル(→基本編11ページ)

このペダルの機能は、4種類の中から選択できます。

㉓ダンパーペダル(→基本編11ページ)

このペダルを踏むと、ドラムス、ティンパニを除く音色に余韻がつきます。

F. その他



㉔パフォーマンスメモリーボタン(→26～31ページ)

自分の演奏を録音したり、後でそれを聴いたり、それに合わせて演奏する時に使用するボタンです。3つのボタンに割り付けられた3ヶのトラックがありますが、1つの曲の楽器編成(パート)を3トラックに分けて録音することができます。

たとえば、レコード2ボタンを押すとトラック2に演奏を録音可能になり、プレイバック2ボタンを押すとトラック2に録音済みの演奏が再生可能になります。

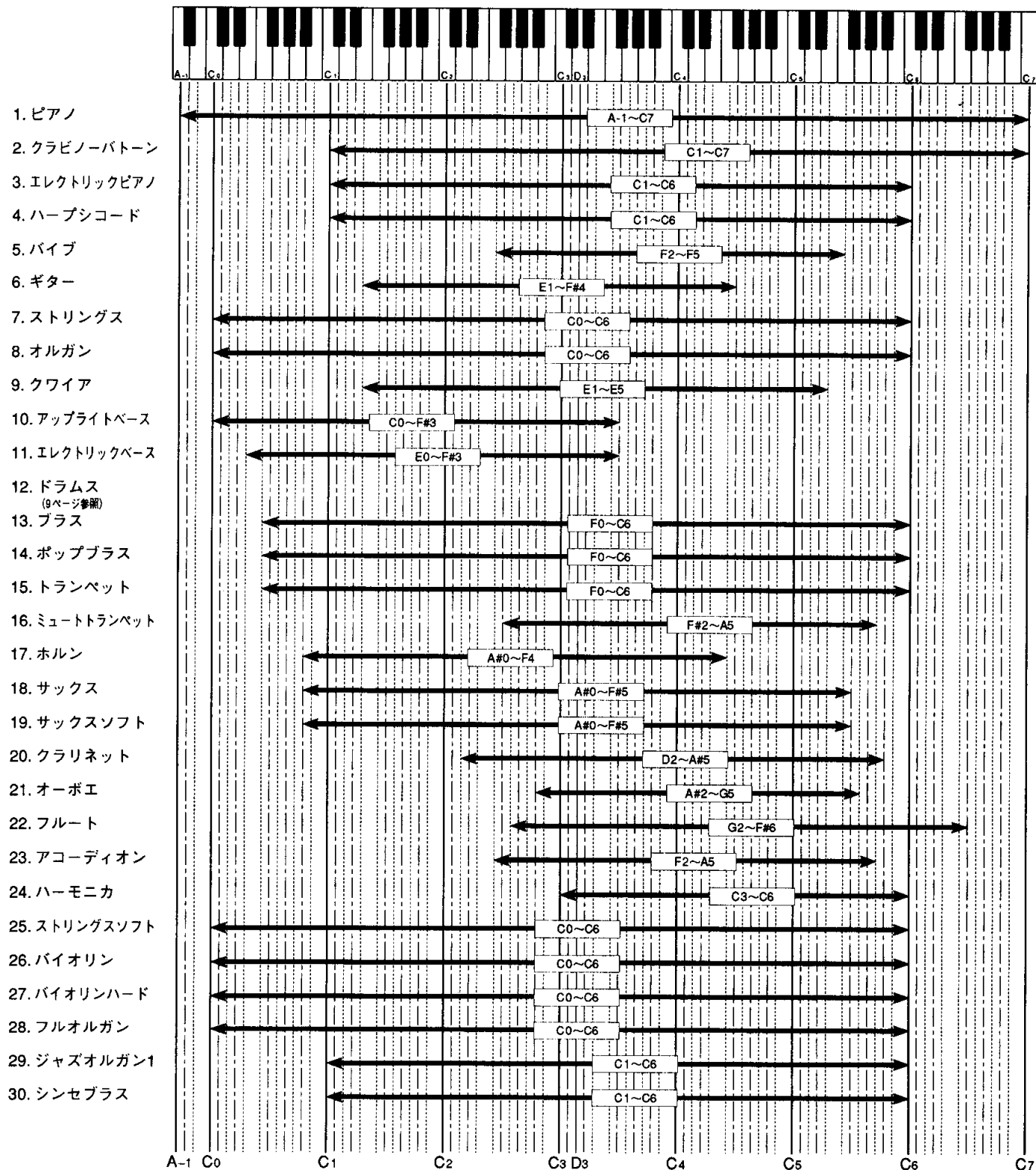
㉕デモボタン(→基本編7ページ)

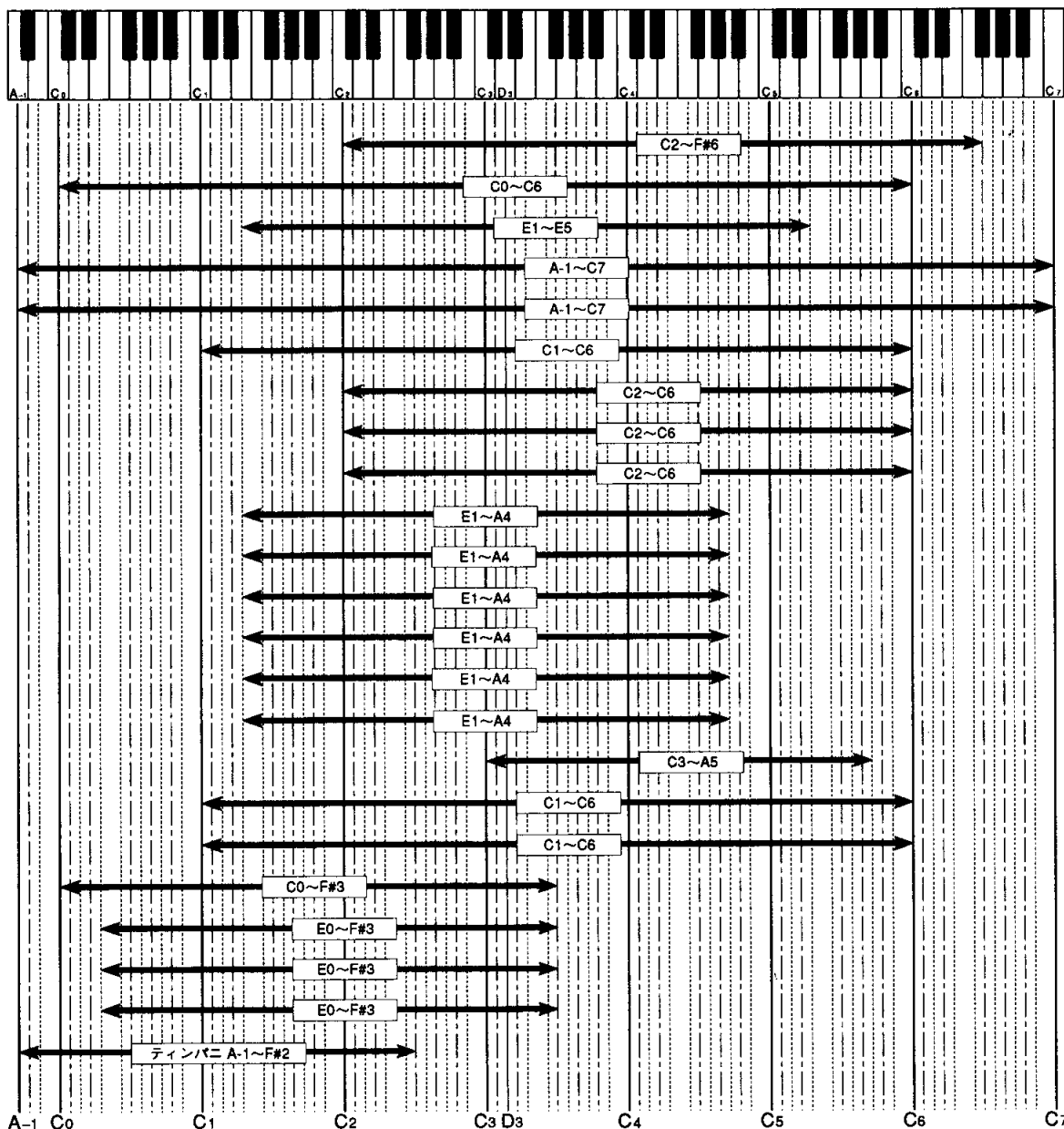
CVP-45には、デモンストレーション曲が24曲入っています。そのデモ演奏を聴く時に使用します。デモ演奏スタート後にもう一度押すとデモ演奏はストップし、デモ演奏を聴く状態が解除されます。

1. 音色と効果について

●各音色の推奨音域

CVP-45には、次の53種類の音色が内蔵されています。それぞれの推奨音域内で演奏すると、その音色名に合ったイメージが得られます。





[こんなこともできる!]

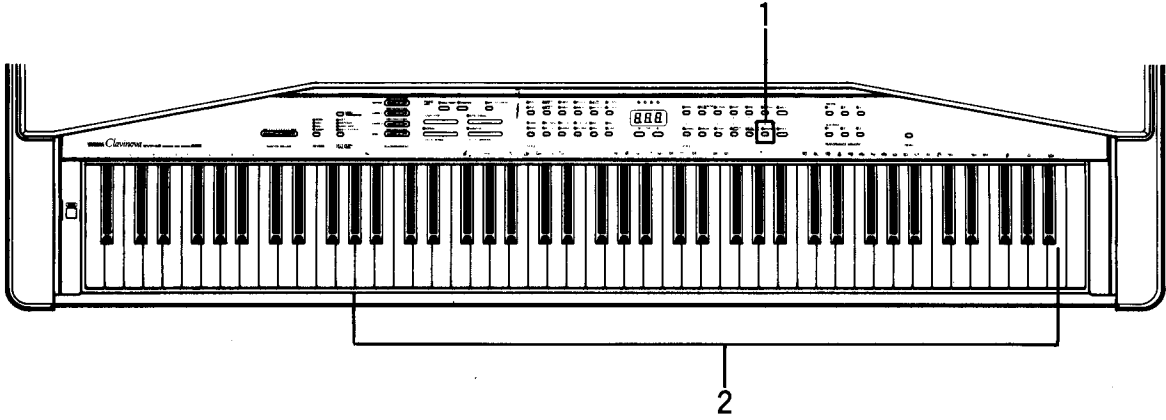
- ・13~53の範囲の音色指定方法には、基本編で紹介した方法と別にもう1つあります。
ドラムスボタンを押しながらボイスボタンの1~0を押して指定する方法です。最初に10の位の値を表示させ、次に1の位の値を表示させます。
たとえば27番の音色を指定する場合は、ドラムスボタンを押しながら、2(クラビノーバトーン)ボタンを押し、引続きドラムスボタンを押したまま、7(オルガン)ボタンを押します。
- ・ボイス13-53ボタンを押しながら、テンポボタンの▼ボタンと▲ボタンを同時に押すと、13番(プラス)の音色が呼び出されます。

[補足]

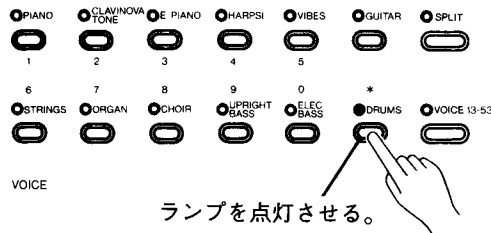
- ・基本編の10ページに音色一覧表があります。
- ・音色によっては、同系統別楽器の音色になっているものがあります。
例) 音色番号15 トランペットの低域は、トランペット、トロンボーン、チューバとつながっています。
音色番号26 バイオリンの低域は、チェロ、コントラバスとつながっています。
音色番号47 ピチカートは、バイオリン、ピオラ、チェロ、コントラバスとつながっています。

●打楽器（キーボードパーカッション）について

鍵盤の上方に41種類の打楽器等の絵があります。音色をドラムスにして押鍵することにより、これらの各打楽器等の音を出すことができます。



1 ボイスボタンのドラムスを押します。



2 演奏します。

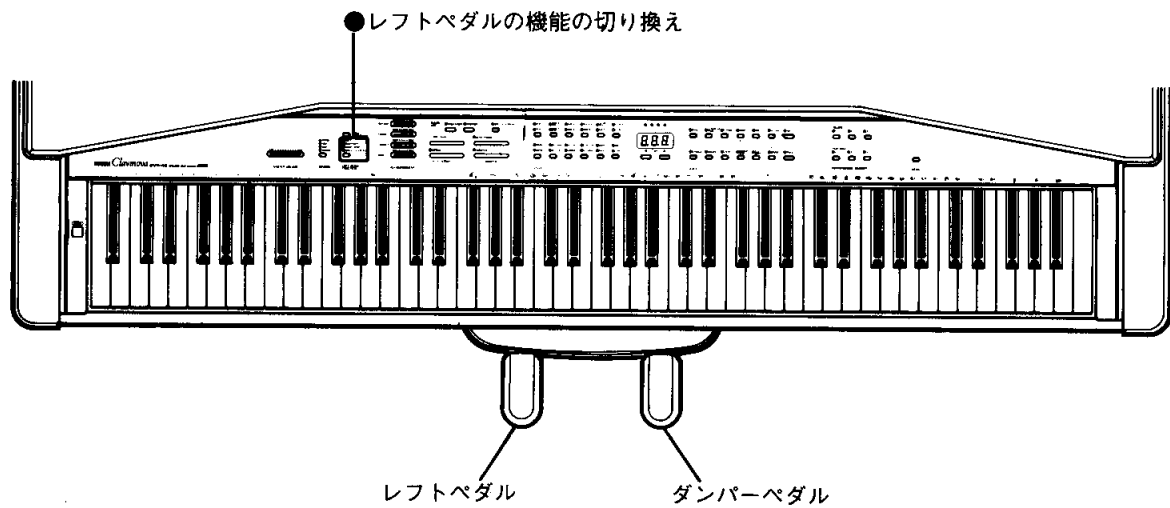
A₁～A₆の各鍵盤に打楽器等が割り付けられていますので、目的の鍵盤を押して演奏します。

シンバル (オフ)	シンバル (オン)	クラッシュ シンバル (ライト)	クラッシュ シンバル (サイト)	ライド シンバル (カッツ)	ライド シンバル (フル)	スネアドラム (ライト)	スネアドラム (サイト)	スネアドラム (ハイ)	スネアドラム (ロー)	バスドラム (ハイ)	バスドラム (ロー)	リムショット	スネアドラム (ハイ)	スネアドラム (サイト)	スネアドラム (ハイ)	スネアドラム (ロー)	タム 4	タム 3	タム 2	タム 1	ライド シンバル	クラッシュ シンバル (ハイ)	クラッシュ シンバル (ロー)	カバサ	メトロノーム	コンガ (ハイ)	コンガ (ロー)	ボンゴ (ハイ)	ボンゴ (ロー)	ティンバレス (ハイ)	ティンバレス (ロー)	クワイカ (ハイ)	クワイカ (ロー)	カスタネット	カウベル	アロロ (ハイ)	アロロ (ロー)	ハンズ	タンバリン	トライアングル (オン)	トライアングル (オフ)
-----------	-----------	------------------	------------------	----------------	---------------	--------------	--------------	-------------	-------------	------------	------------	--------	-------------	--------------	-------------	-------------	------	------	------	------	----------	-----------------	-----------------	-----	--------	----------	----------	----------	----------	-------------	-------------	-----------	-----------	--------	------	----------	----------	-----	-------	--------------	--------------

【こんなこともできる！】

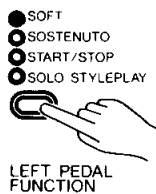
- ・シンバルの音を短くしたい時は、シンバルの鍵盤を押した後、シンバルオフ(A₁)の鍵盤を押してください。シンバルオフの鍵盤を押した瞬間にシンバルの音が切れます。

●ペダルを使う



●レフトペダルの機能の切り替え

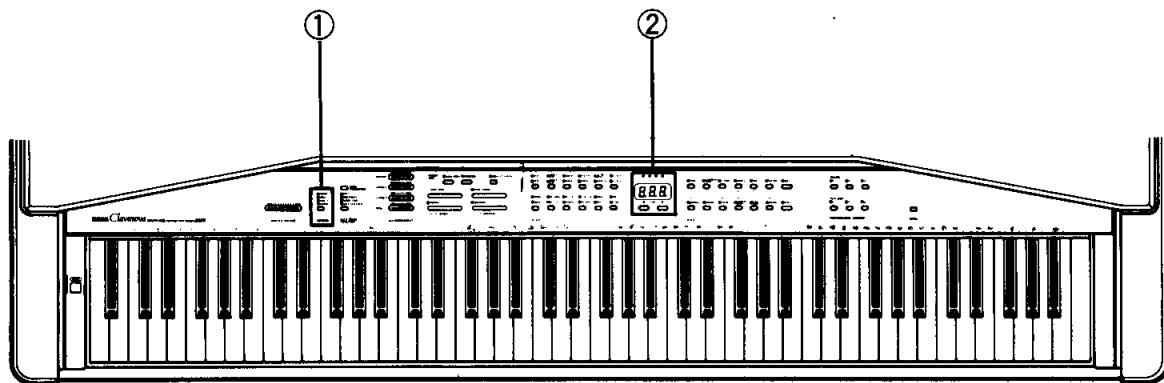
レフトペダルファンクションボタンを押して、希望する機能の選択ができます。ボタンを押すごとに順に切り替わります。なお、電源投入時はソフト機能としての働きに戻ります。



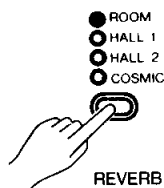
- ・ソフト：
ペダルを踏むと、音の響きがやわらかくなります。
- ・ソステヌート：
ペダルを踏むと、ペダルを踏むときに押さえていた鍵盤の音だけに余韻がつきます。
- ・スタート/ストップ：
リズムが止まっている時にペダルを踏むとリズムがスタートし、もう一度踏むと止まります。
- ・ソロスタイルプレイ：(24ページ参照)
ソロスタイルプレイボタンが押されている時のみこの機能を選択できます。
ペダルを踏んでいる間だけ、左手のコードに基づいて右手の演奏音に装飾音がつきます。

●リバーブの深さを変える

リバーブのかかる深さを自由に設定できます。

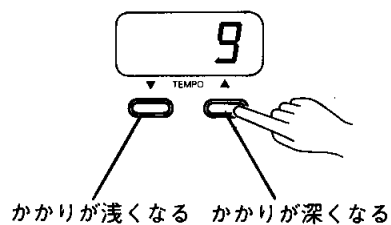


①リバーブボタンを押しながら、



②テンポボタンで深さを指定します。

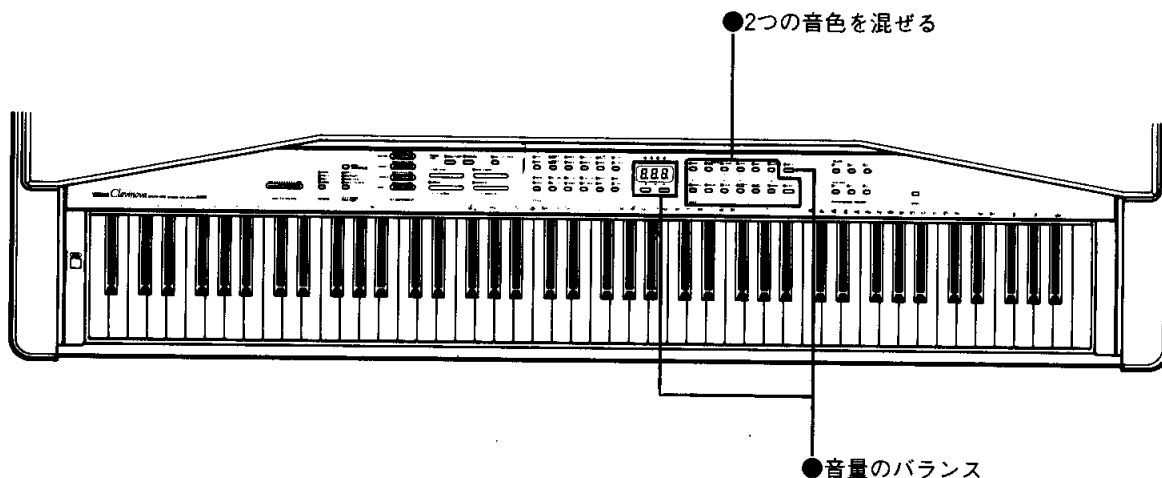
0～15の範囲で指定でき、標準は8になっています。



【補足】

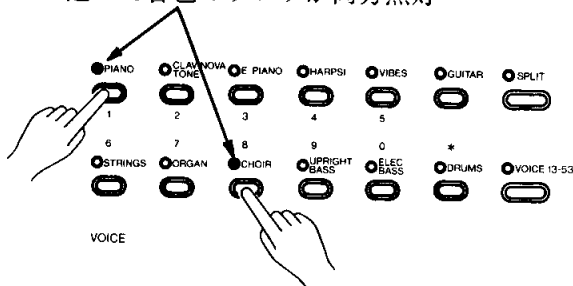
- ・ベース音、リズム音にかかる効果の深さは浅めになっています。
- ・リバーブボタンを押しながら、テンポボタンの▼ボタンと▲ボタンを同時に押すと、標準の深さ(8)に戻ります。

● 2つの音色を混ぜる（デュアル機能）



2つの音色を混ぜて鳴らすことができます。組み合わせたい2つの音色のボタンを同時に押します。

選んだ音色のランプが両方点灯

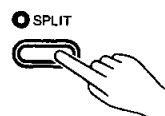


(つまり、この場合はピアノとクワイアが選ばれたことになります。)

● 音量のバランスについて

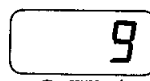
2つの音色の音量バランスを変えることができます。

① スプリットボタンを押しながら、



② テンポボタンでバランスを指定します。

1～15の範囲で指定でき、標準は8になっています。テンポ表示器を見ながら設定します。



TEMPO



小さい音色番号(ピアノ)の音量バランスが大きくなります。

大きい音色番号(クワイア)の音量バランスが大きくなります。

[補足]

- ・1音色の状態に戻す時は、通常通り1音色の指定をします。(2音色の状態から1音色の状態に戻ります。)
- ・スプリットボタンを押しながら、テンポボタンの▼ボタンと▲ボタンを同時に押すと、標準の音量バランス(8)になります。

[アドバイス]

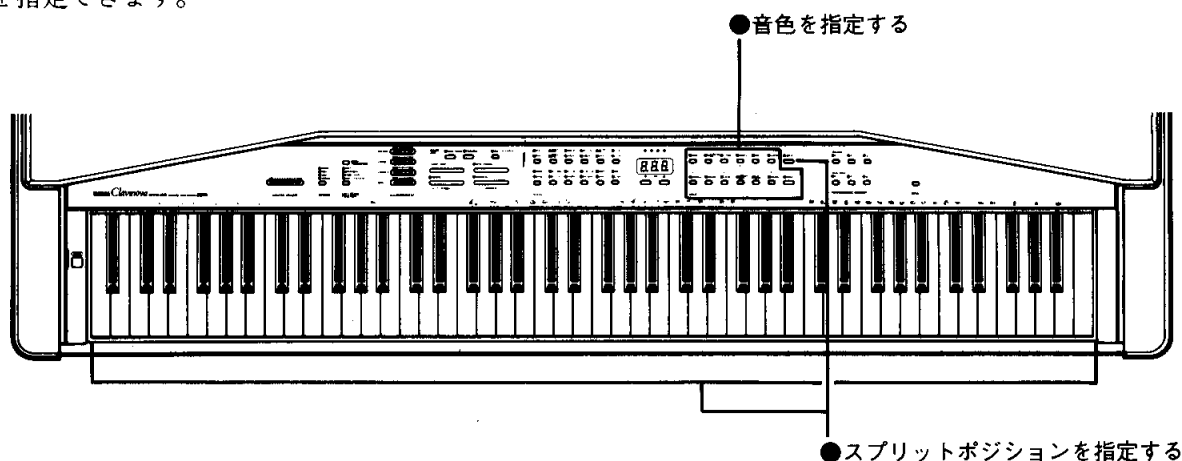
- ・この機能を使うと音に厚みが出ます。サビなどに使うと効果的です。
- ・13-53ボタンに記憶されている音色も、片方の音色として使うことが可能です。

[注意!]

- ・ドラムスの音色は指定できません。
- ・13～53の範囲の音色どうしを組み合わせることはできません。
- ・スプリット機能使用時は2つの音色を混ぜて鳴らすことはできません。
- ・ソロスタイルプレイを使っているときは、2つの音色を混ぜて鳴らすことはできません。

● 2つの音色を選んで弾く（スプリット機能）

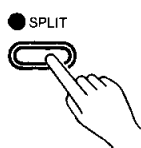
低音部を弾く音と高音部を弾く音の音色を、異なったものにして演奏できます。それぞれの音色を指定できます。



●スプリットポジションを設定する

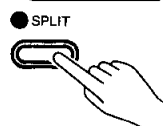
①スプリットボタンを押します。

ランプが点灯して、スプリット演奏が可能になります。

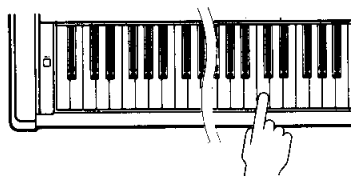


②スプリットポジションを変更できます。

スプリットボタンを押しながら、

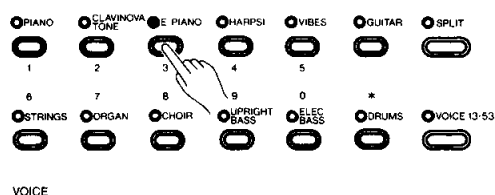


低音部と高音部の境にしたい鍵盤を押して指定します。境にした鍵盤は低音部側に含まれます。



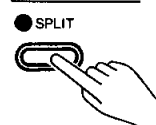
●音色を指定する

①高音部の音色を指定します。

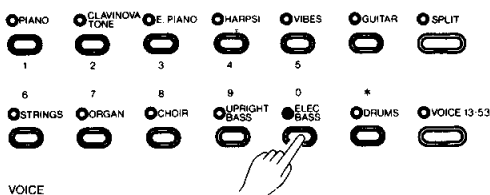


②低音部の音色を指定します。

スプリットボタンを押しながら、



ボイスボタンを押して指定します。

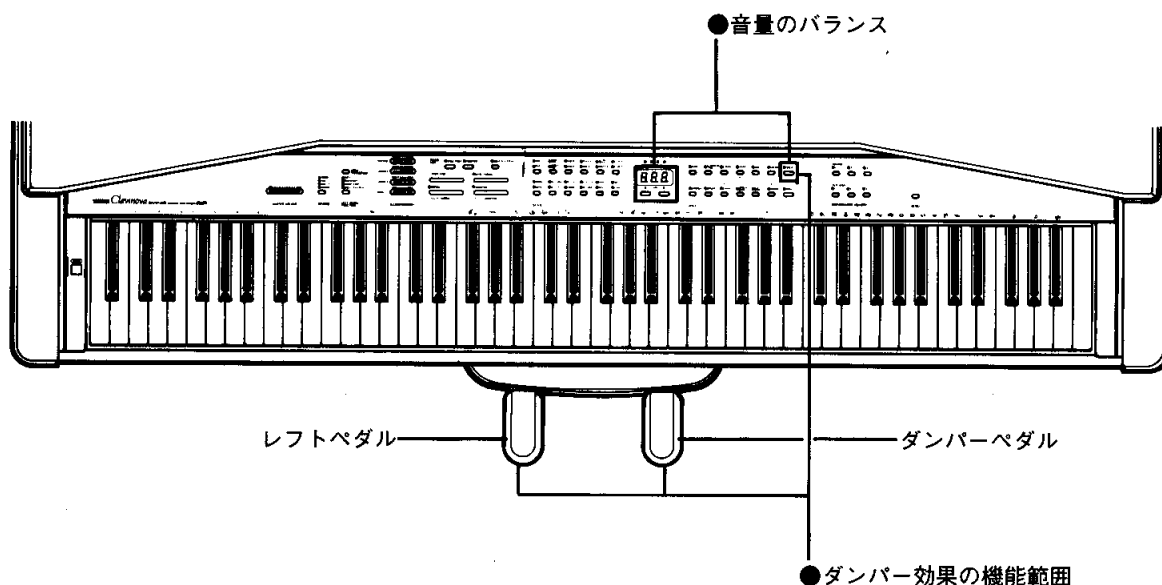


[補足]

- ・電源を入れた時は、スプリットポジションはF \sharp 2(▼マークのある鍵盤)に設定されます。
- ・電源を入れた時は、高音部の音色はピアノ、低音部の音色はアップライトベースになります。

[注意！]

- ・デュアル機能とスプリット機能を同時に使うことはできません。
- ・低音部の音色にベース以外の音色を指定した場合、その音色は1オクターブ高く発音されます。
- ・ピアノABC機能やソロスタイルプレイを使っているときは、スプリット機能を使うことはできません。



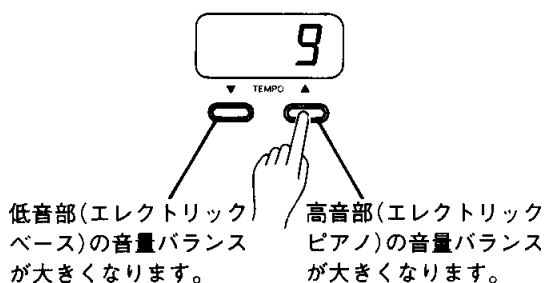
●音量のバランスについて

低音部と高音部の音量バランスを変えることができます。

①スプリットボタンを押しながら、

②テンポボタンでバランスを指定します。

1～15の範囲で指定でき、標準は8になっています。
テンポ表示器を見ながら設定します。



低音部(エレクトリックベース)の音量バランスが大きくなります。

高音部(エレクトリックピアノ)の音量バランスが大きくなります。

●ダンパー効果の機能範囲について

ダンパーペダルの機能範囲を変えることができます。

①スプリットボタンを押しながら、

②ダンパーペダルを踏むと：

高音部にのみ効果がかかります。

レフトペダルを踏むと：

低音側にのみ効果がかかります。

ダンパーペダルとレフトペダルを踏むと：

高音部と低音部の両方に効果がかかります。

[補足]

- ・ソフト、ソステヌート機能は、高音部と低音部の両方に効果がかかります。
- ・スプリットボタンを押しながら、テンポボタンの▼ボタンと▲ボタンを同時に押すと、標準の音量バランス(8)になります。

[注意!]

- ・電源を入れた時は、高音部にのみダンパー効果をかけることが可能になります。

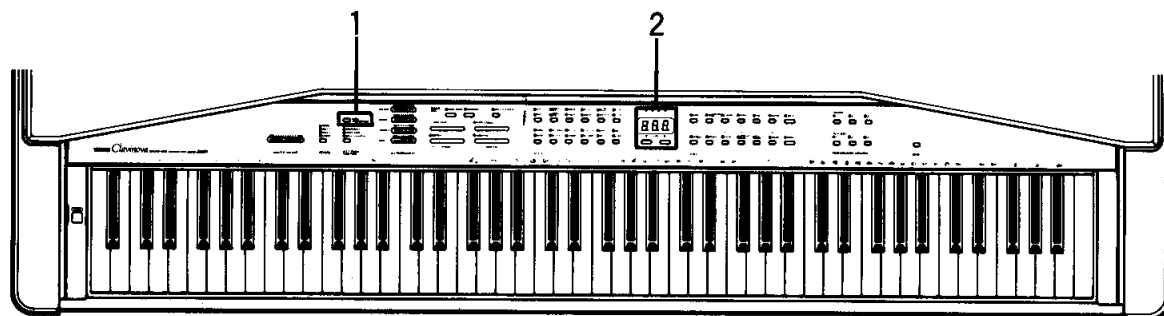
●音程を変える（トランスポーズ）

押さえる鍵盤（運指）を変えずに、歌う人の声の高さにキーを合わせることができます。（つまり、弾く高さで発音される音の高さをずらすことができます。）

音程を変える時にはここに示すトランスポーズという機能を使って、希望する量だけずらしてください。

★±6半音の範囲でずらすことができます。つまり”ド”の音なら高い方に最大で”ファの#”（半オクターブ）まで、低い方も最大で”ファの#”（半オクターブ）までずらすことができます。

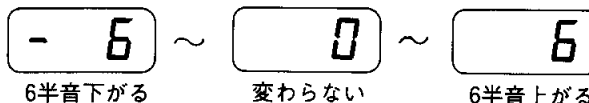
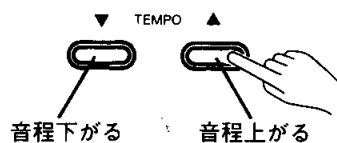
たとえば+5半音ずらすと



1 MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、



2 テンポボタンで移調量を指定します。



【アドバイス！】

・この機能は合奏などで弾き方を変えずに他の楽器とキーを合わせる時にも便利です。

【補足】

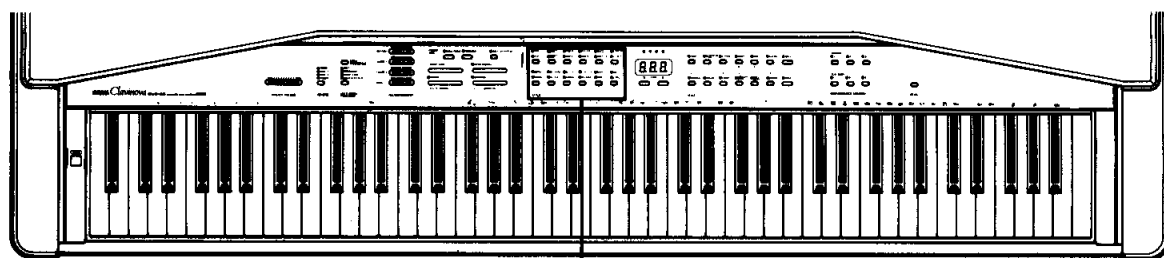
- ・たとえば”ド”の音を”ファ”の音に変えたい時は、5半音高くすればよいわけですから、値を+5(表示は5)にします。
- ・発音中の音については、移調量を変更しても移調された音では発音されません。次の押鍵の時から、移調された音程で発音されます。
- ・電源を入れた時は、いつも元の高さに戻っています。また、テンポボタンの▼ボタンと▲ボタンを同時に押せば0に戻ります。

【注意！】

・トランスポーズの結果により発音域(A-1～C7)以外となった鍵盤を弾いた時は、高音発音域外では1オクターブ低く発音され、低音発音域外では1オクターブ高く発音されます。

2. 自動伴奏(ピアノABC)で楽しもう

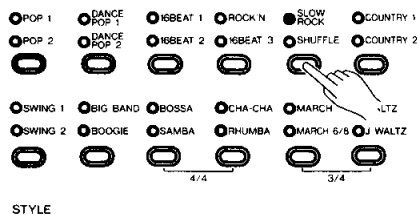
ピアノABC機能を使って、自動伴奏させてみましょう。曲の流れにそって左手(低音部)でコードを演奏していけば、リズム、コード、ベースによる自動伴奏が鳴ります。



●リズムスタイルを選ぶ

●リズムスタイルを選ぶ

内蔵リズムスタイルは24種類記憶されており、自動伴奏のスタイルとして選択できます。



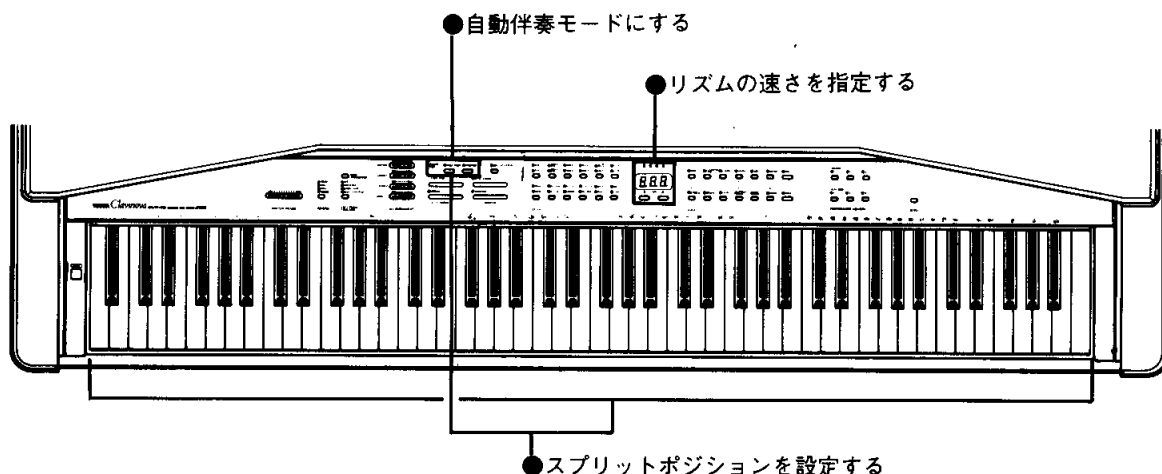
STYLE

[注意]

・リズムスタイルを2つ選んで、いっしょに鳴らすことはできません。

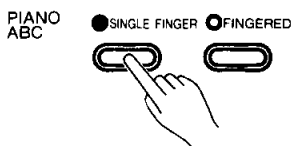
[補足]

・各リズムスタイル共にノーマルとバリエーションの2パターンがありますので、24スタイル×2パターン=48スタイルあるという見方もできます。
・コード音、ベース音の音色は、スタイルを選択した時点で自動設定されます。



●自動伴奏(ピアノABC)モードにする

好みに合わせて、シングルフィンガーか、フィンガードの状態にしてください。(ビートランプの1拍目(赤)がテンポに合わせて点滅し始めます。)



シングルフィンガー機能を使う場合

コードを押さなくても、簡単に自動伴奏させることができます。たとえばメジャーコードなら指1本で、その他のコードでも2,3鍵押さえるだけでOKです。

フィンガード機能を使うと

普通のコードの押さえ方で自動伴奏させることができます。

ピアノABC状態にするとスタート待機状態になります。(低音部の鍵盤を押すと自動伴奏がスタートします。)

●リズムの速さを指定する



テンポ表示器で1分間の拍数を見ながら、♩=32~280の範囲で指定できます。

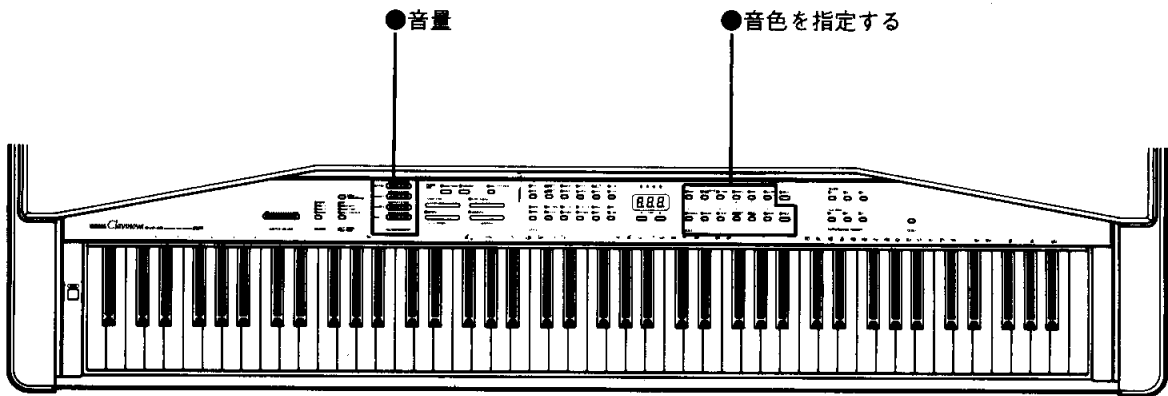
【補足】

- ・シングルフィンガーの場合は、4種類のコードに限定されますが、フィンガードの場合は、20種類のコード指定に対応します。
- ・電源を入れた時は、スプリットポジションはF[#]₂(▼マークのある鍵盤)に設定されます。
- ・スプリットポイントは、低音部側に含まれます。
- ・リズムが止まっている時に、リズムスタイルを切り替えると、自動的にそのスタイルの標準テンポに変わります。
- ・テンポボタンは、区切って押すと値が1ステップずつ変わります。また、強く押し続けると素早く連続して変わり、弱く押し続けるとゆっくり連続して変わります。

- ・電源を入れた時は、いつもポップス1の標準テンポ♩=86に戻っています。また、テンポボタンの▼ボタンと▲ボタンを同時に押すと、選ばれているスタイルの標準テンポに戻ります。

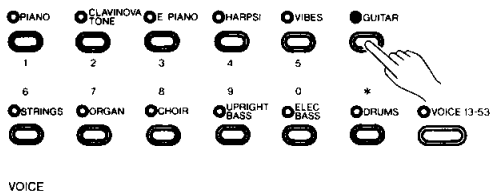
【こんなこともできる！】

- ・シングルフィンガーボタン、またはフィンガードボタンを押しながら、低音部(左手和音)と高音部(右手メロディー)の境にしたい鍵盤を押すことにより、スプリットポジションを変更できます。
- ・ピアノABCを使わないで、シンクロスタートさせることもできます。MIDI/トランスポートボタンを押しながら、フィルトゥーノーマルボタンを押してください。シンクロスタートを解除する時は、もう一度同じ操作をします。



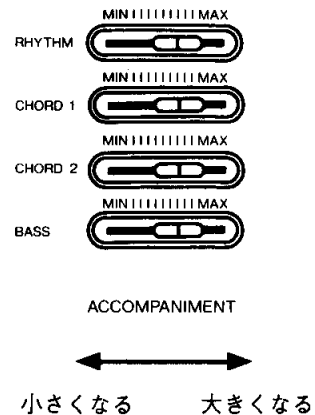
●音色を指定する

高音部(右手の演奏音)の音色を指定します。



●音量 (ボリューム) について

リズムの音量をリズムボリューム、コードの音量をコード1および2ボリューム、ベースの音量をベースボリュームで、それぞれ調節します。



【注意！】

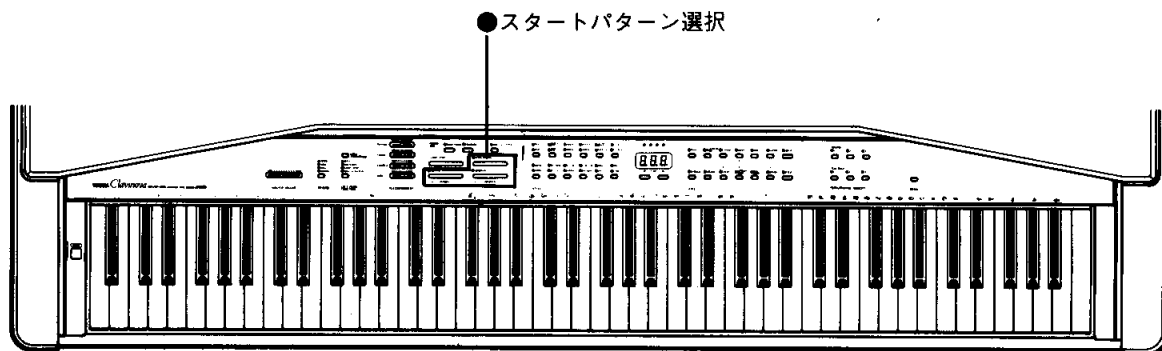
- ・各パートのボリュームが最小(MIN)の位置にあると、そのパートの音は出ません。
- ・マスターボリュームが最小(MIN)の位置にあると、全ての音が出ません。

【こんなこともできる！】

- ・MIDI/トランスポートボタンを押しながら、ベースボリュームを操作することにより、高音部の音量を調節できます。(調節後、ベースボリュームは通常の機能に戻ります。)
- ・なお高音部の音量調節後は、ベースの音量とベースボリュームの位置とは異なりますのでご注意ください。

【アドバイス！】

- ・4つのパートのボリュームを上図のような位置にセットすれば、全ての伴奏パートが標準的なバランスで鳴ります。
- ・4つのパートを全て鳴らすと厚みのある伴奏になりますが、曲によってはなじまないパートがあったり、右手メロディーと伴奏音がぶつかってしまうことがあります。このような場合は、コード2のボリュームを最小にしてください。これにより、伴奏パターン用途が広がります。



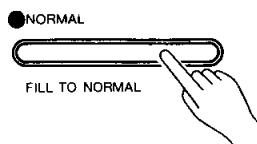
●スタートパターン選択

●スタートのパターン選択

スタートの際のパターン(最初のパターン)を選択しておくことができます。

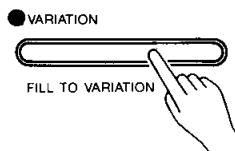
ノーマルパターンを選ぶ場合

ノーマルボタンを押します。



バリエーションパターンを選ぶ場合

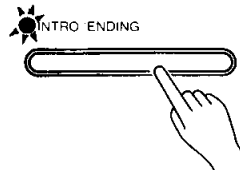
バリエーションボタンを押します。



イントロパターンを選ぶ場合

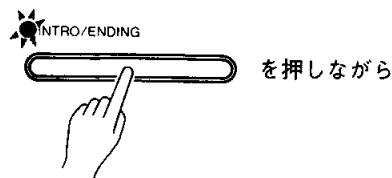
イントロ/エンディングボタンを押します。

(イントロ/エンディングボタンのランプが点滅します。スタートさせた後は、イントロの間イントロ/エンディングボタンのランプが点灯に変わり、イントロ後消灯します。)

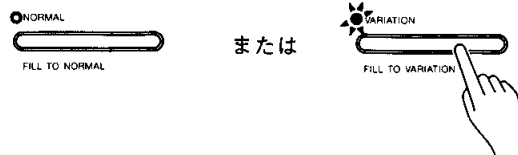


フィルインパターンを選ぶ場合

- ①イントロ/エンディングボタンを押しながら、(イントロ/エンディングボタンのランプが点滅します。)



- ②フィル トゥ ノーマルボタンまたはフィル トゥ バリエーションボタンを押します。
(フィルボタンの点滅に変わります。スタートさせた後は、フィルインの間フィルボタンのランプが点滅し、フィルイン後点灯に変わります。)



[アドバイス!]

- ・コードを変える時、指を鍵盤から離さないで動かすと、コードが思いどおりに変わらないことがあります。鍵盤から指を一旦離した上で、次の鍵盤を押すようにしてください。
- ・付属の「シングルフィンガーコード一覧表」、および「フィンガードコード一覧表」を参照してください。

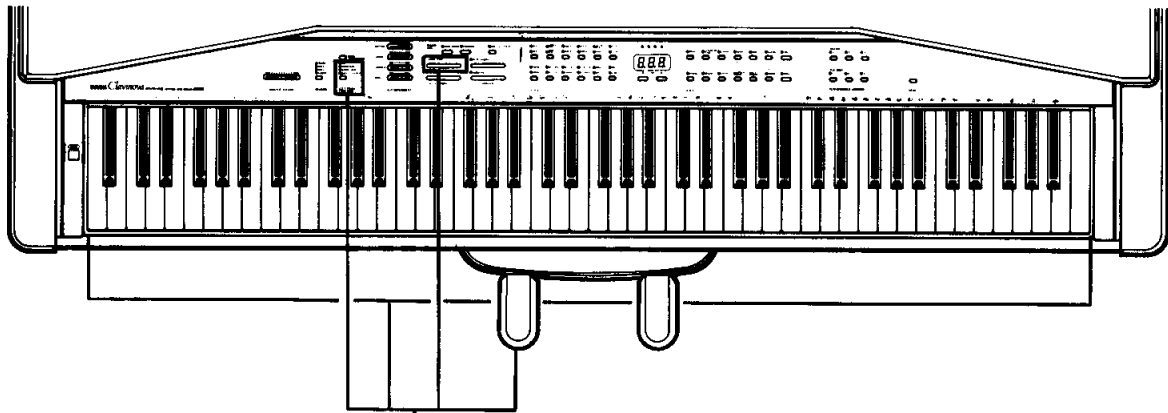
[補足]

- ・イントロパターンの長さはリズムスタイルにより異なり、1~4小節です。
- ・フィルインスタートのパターンは1小節です。

- ・イントロパターンからスタートさせた場合は、リズムをストップさせるとイントロ状態が保持され、ランプが点滅します。解除する時はもう一度イントロ/エンディングボタンを押してください。

[こんなこともできる!]

- ・演奏中、別のリズムスタイルに切り替えることもできます。切り替えるリズムスタイルのボタンを押してください。
- ・右手の押鍵により音量が自動的に低くなるコードパターンがあります(リズムがロックンロールの時のノーマルパターンのコード2など)。この場合、MIDI/トランスポーズボタンを押しながらボサノバボタンを押すことにより、低くならないモードにできます。



●演奏をスタートさせる

●演奏をスタートさせる

いずれかの方法でスタートさせます。

リズムと伴奏を同時にスタートさせる場合

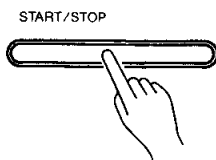
低音部の鍵盤を押した時点で、自動伴奏がスタートします。

伴奏がスタートすれば、低音部の鍵盤から指を離してもそのコードの伴奏が続きます。つまり低音側の鍵盤は、コードを変える時だけ押せばよいということです。



リズムを先にスタートさせる場合

スタート/ストップボタンを押します。



ペダルによりリズムを先にスタートさせる場合

- ①レフトペダルファンクションの設定をスタート/ストップにします。
- ②レフトペダルを踏むと、リズムがスタートします。(もう一度踏むと停止します。)

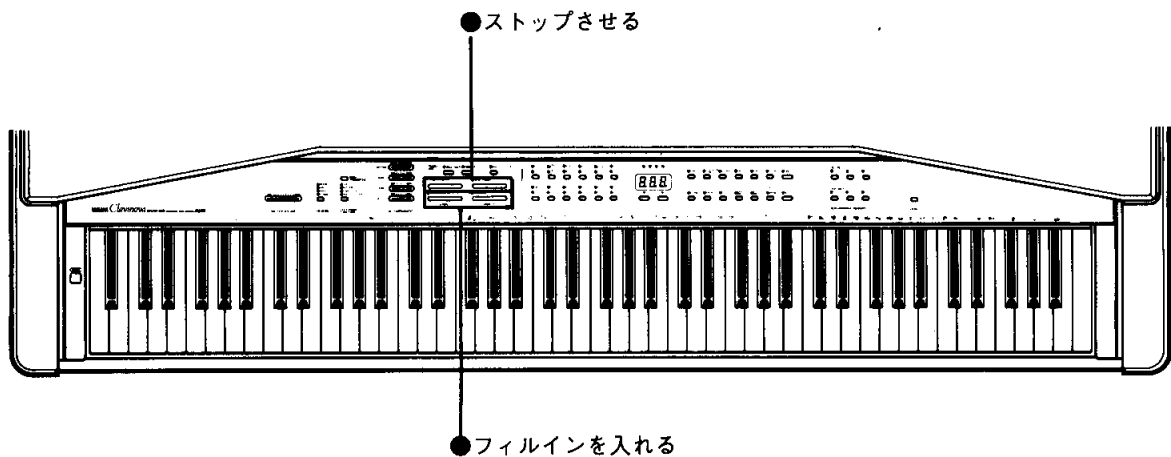


リズムをスタートさせた後は、ビートランプの点灯が左から順に、1拍ごとに移動します。



[こんなこともできる!]

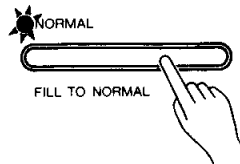
- ・MIDI/トランスポーズボタンを押しながらチャチャボタンを押すことにより、フィンガード時の7thパターンを、短調の曲になじみやすいパターンに変更できます。(簡易調性モード)



●フィルインを入れる

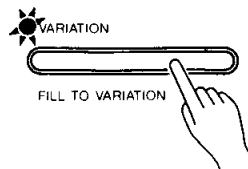
ノーマルパターンのフィルインを入れる場合

フィル トゥ ノーマルボタンを押します。
 フィルインパターンの後(フィルインの間点滅)、ノーマルパターンになります(フィルイン後点灯)。



バリエーションパターンのフィルインを入れる場合

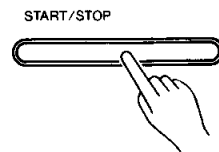
フィル トゥ バリエーションボタンを押します。
 フィルインパターンした後(フィルインの間点滅)、バリエーションパターンになります(フィルイン後点灯)。



●演奏をストップさせる

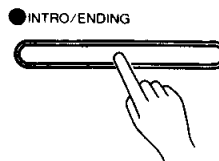
すぐにストップさせる場合

スタート/ストップボタンを押します。



エンディングパターンでストップさせる場合

イントロ/エンディングボタンを押します。
 (エンディングの間ランプが点灯します。)



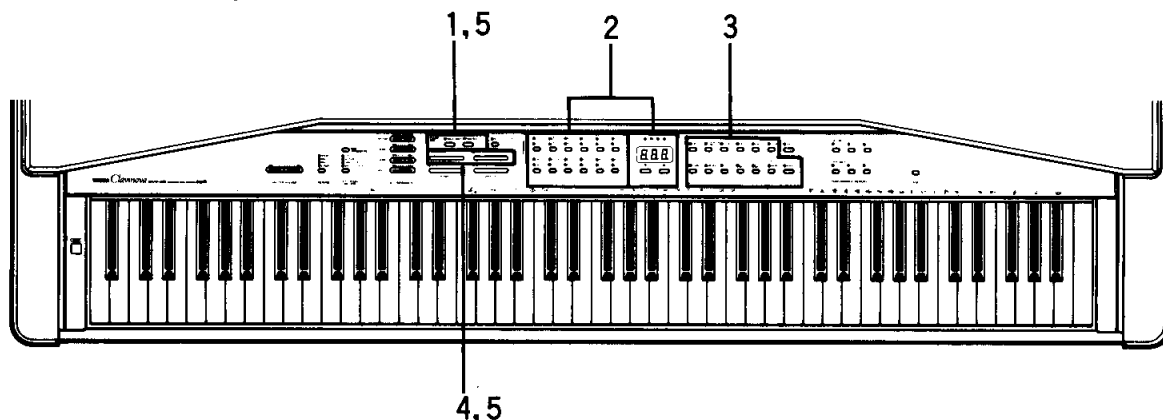
- ・ABC状態でストップさせた場合はシンクロスタート待機状態になります。
- ・完全に終了させる場合は、シングルフィンガーボタンまたはフィンガードボタンを押して、ピアノABCの状態を解除してください。

[補足]

- ・フィルインは、最長で1小節です(押すタイミングで長さが異なります)。
 また、押し続けるとフィルインのパターンが繰り返されます。
- ・フィルイン中にもう一度同じフィルインボタンを押すと、フィルインパターンが解除されて、ノーマルまたはバリエーションのパターンに戻ります。
- ・エンディングパターンは2~8小節です。小節の前半でボタンを押した時はその小節からエンディングが入り、後半で押した時は次の小節から入ります。

●フルキーボードABCで演奏

フルキーボードABCの機能を使った時は、全ての鍵盤の範囲が自動伴奏用の鍵盤になります。つまり通常のピアノ演奏をしながら、コードを変える時に押さえやすい所でコードを押さえることができます。



1 フルキーボードABCモードにする

シングルフィンガーボタンとフィンガードボタンを同時に押します。(ビートランプの1拍目(赤)がテンポに合わせて点滅し始めます)

PIANO ABC ● SINGLE FINGER ● FINGERED



両方のランプが点灯します。

フルキーボードABCの状態にするとスタート待機状態になります。(フィンガードコードの押え方で押さえると自動伴奏がスタートし、コードでない押え方をするとリズムだけがスタートします。)

2 リズムスタイル、リズムの速さを指定する

3 音色を指定する

- ・デュアル機能を使う場合：
手弾き音の2音色を指定できます。
- ・いずれの機能も使わない場合：
手弾き音の音色を指定できます。

4 演奏の開始

押鍵すると、リズムがスタートします。フィンガードの押え方で押鍵すると、自動伴奏が鳴ります。スタート/ストップボタンを押して、リズムのみ先にスタートさせることも可能です。

★コードはフィンガードコードの押さえ方をしてください。

5 演奏の終了

スタート/ストップボタンまたはイントロ/エンディングボタンを押して、演奏を終了します。フルキーボードABCの状態を解除する場合は、シングルフィンガーボタンまたはフィンガードボタンを2回押してください。

[補足]

・フルキーボードABC機能は、ヤマハのポータブルキーボードで使われていた技術を応用した機能です。

[注意！]

- ・コードの検出は、コードの構成音を3音以上同時に弾いた時のみ行われます。それ以外の押鍵では、前のコード伴奏を継続します。
- ・5音以上同時に弾いた場合は、それらの内の低い方からの4鍵でコードが検出されますが、その4鍵の中にコードの構成音が3音以上ない場合は、前のコード伴奏を継続します。

●転回テクニックで楽々演奏

付属の「フィンガードコード一覧表」で見ても解るように、コード名の頭の大文字がほとんど最低音になって載っています。このように大文字、つまり専門用語で「ルート」とか「根音」と呼ばれる音を最も低い音にしたカタチをコードの「基本形」といいます。

これに対し、音の積み重ねの順番を少し変えたものを「転回形」といいます。たとえば、Cメジャーコードを例にとると基本形は「ドミソ」ですが、〈例1〉のように、それを転回して「ミソド」と弾いても、「ソドミ」と弾いても、Cメジャーコードには変わりありません。

〈例1〉

C 基本形 転回形その1 転回形その2

このような転回のコツを身につけると、響きを楽しめるのと同時に、ピアノABC機能を使う時、演奏が楽になります。たとえば〈例2〉を見てください。①の方はCコードもAmコードも基本形ですが、CからAmに移る際「ドミソ」から「ラドミ」と変えなければいけないため、全ての指の位置を変えて押鍵しなければなりません。

次に②の方を見てください。こちらはAmコードに転回のコツを加えたものです。ソを押さえている指1本をとなりに動かして押鍵し直すだけで、簡単にコードを変えることができます。

〈例2〉

①

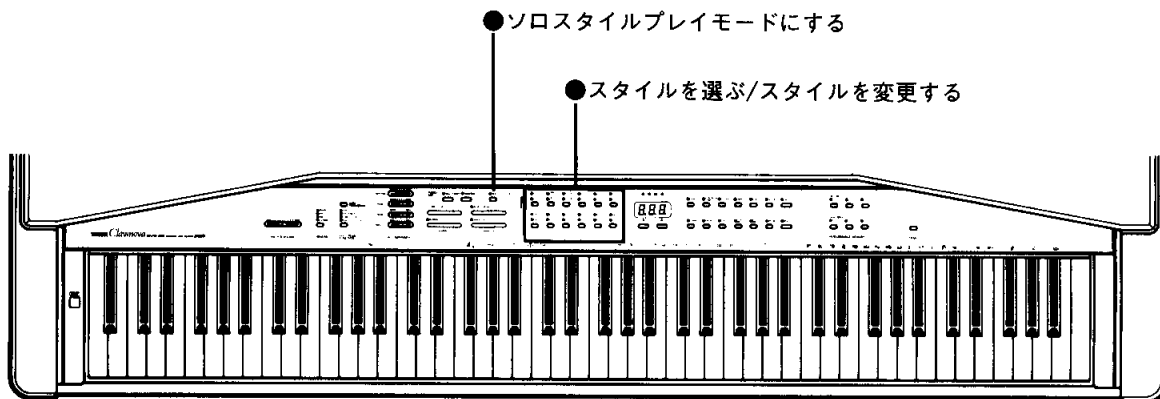
全ての指を変えて押鍵し直す

②

1本だけ変えて押鍵し直せばよい

3. ソロスタイルで楽しもう

全リズムスタイルの中から好みのスタイルを選び、瞬時にセットアップして演奏できる機能です。選択により音色や装飾音が自動的にセットアップされると共に、ピアノABCの状態になります。演奏すると、右手の演奏音に装飾音が加わります。さあ、ソロスタイルで楽しみましょう。



●ソロスタイルプレイモードにする

ソロスタイルプレイボタンを押します。

●SOLO STYLEPLAY

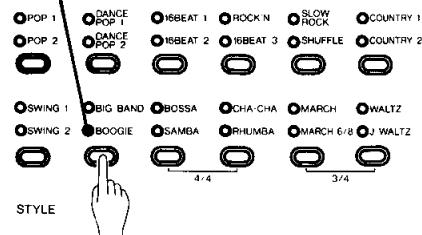


★ピアノABCモードになっていない時は、自動的にシングルフィンガーコードのスタート待機状態になります。

●スタイルを選ぶ

スタイルを選んでボタンを押します。

選んだスタイルのランプが点灯する



●スタイルを変更する

スタイル変更は演奏中でも可能です。切り替えるスタイルを選んでスタイルボタンを押してください。

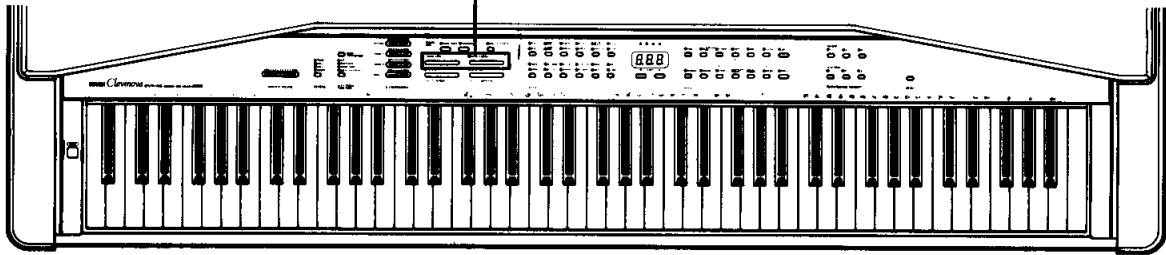
[こんなこともできる!]

- ・右手の演奏音の音色を変更したり、スプリットポイントを変更することが可能です。
- ・レフトペダルファンクションの設定をソロスタイルプレイにすると、レフトペダルを踏んでいる間のみ、高音部の演奏音に装飾音が付きます。
- ・リズム、コード1、コード2、ベース、全体の音量を、それぞれのボリュームで調節できます。
- ・装飾音のタイプは、指定したスタイルによって自動的に決まりますが、装飾音のタイプを他のスタイルのものに変更することもできます。変更する場合は、ソロスタイルプレイボタンを押しながら、希望するスタイルのボタンを押します。(ただし、通常のスタイル切り替えを行ったり、パワースイッチをオフにすると、変更内容は消えます。)

[注意!]

- ・音色はスタイルを変更するごとに自動的に変わります。このため、別の音色で演奏したい時は、スタイル変更後に音色を選んでください。
- ・ソロスタイル機能とフルキーボードABC機能を同時に使うことはできません。
- ・ソステヌートをかけることはできません。

●演奏をスタートさせる/ストップさせる



●演奏をスタートさせる

シンクロスタートのままスタートさせる場合

低音部の鍵盤を押した時点で、自動伴奏がスタートします。

伴奏がスタートすれば、低音部の鍵盤から指を離しても、そのコードの伴奏が続きます。つまり低音側の鍵盤は、コードを変える時だけ押せばよいということです。

リズムを先にスタートさせる場合

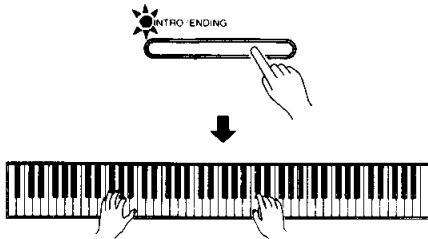
スタート/ストップボタンを押す。

イントロスタートさせる場合

①イントロ/エンディングボタンを押し、

②スタート/ストップボタンを押す。

または低音部の鍵盤を押す。



●演奏をストップさせる

すぐにストップさせる場合

スタート/ストップボタンを押す。

エンディングパターンでストップさせる場合

イントロ/エンディングボタンを押す。

- ・この状態でストップさせた場合はシンクロスタートの待機状態になります。
- ・完全に終了させる場合はソロスタイルプレイ、シングルフィンガーまたはフィンガードのボタンを押して、ソロスタイルプレイおよびピアノABCの状態を解除してください。

[アドバイス!]

・左手演奏において鍵盤から指を離さないで動かすと、コードが正確に鳴らないことがあります。

鍵盤から指を一旦離した上で、次のコードを指定してください

[注意!]

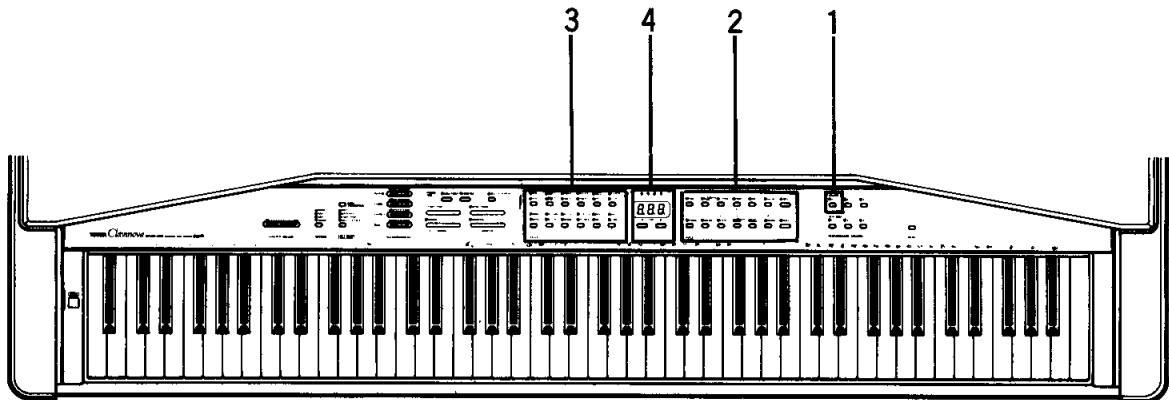
・ピアノABCパターンで、コード進行を用いたパターン(イントロ、エンディング)は、ソロスタイルプレイを機能させると、オクターブユニゾンによる装飾音になります。

4. 演奏を録音/再生する(パフォーマンスメモリー)

●演奏を録音する

自分の演奏を録音してみましょう。

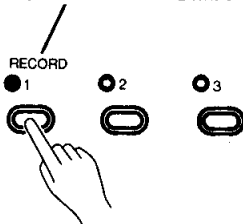
●トラック1に録音する



1 トラック1を指定する

トラック1のレコードボタンを押します。すると、4分音符のタイミングで”カッ、カッ、カッ”とカウント音が鳴り始めます。この状態で録音待機状態です。(押鍵すると録音が始されてしまいます。)

トラック1のランプを点灯させる。



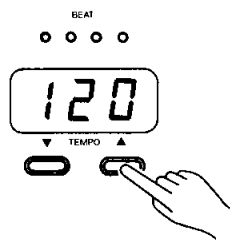
2 音色を指定する

3 リズムスタイルを指定する

録音する曲に合ったリズムスタイルを選んでください。

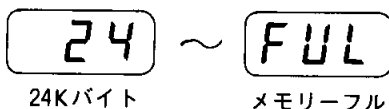
4 速さ(テンポ)を調節する

カウント音を聴きながら調節できます。



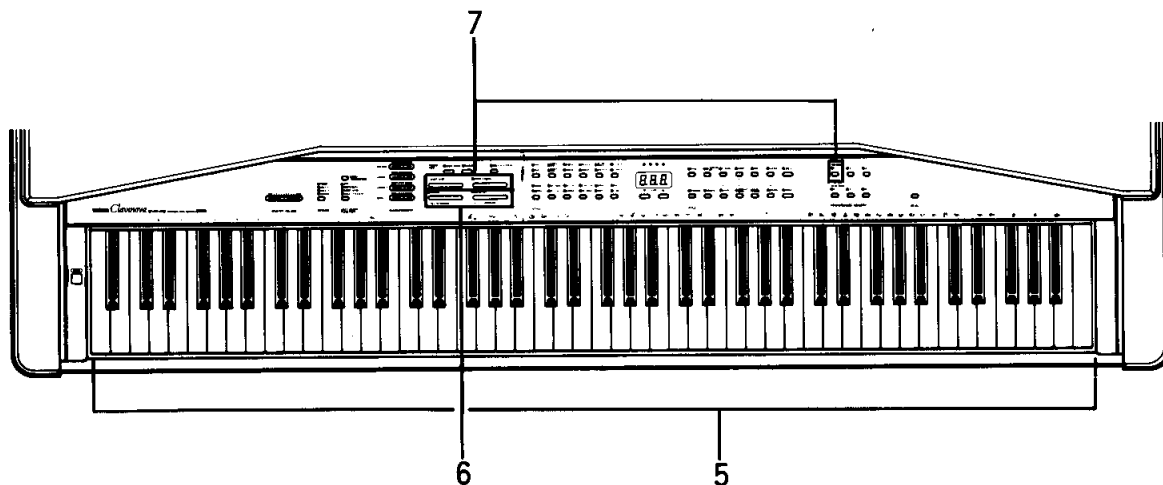
[補足]

- ・マスターボリューム調整による全体の音量については、記憶されません。演奏しやすい音量にすればOKです。
- ・レコードボタンを離すと、そのディスクの記憶残容量がkバイト表示されます。
- ・メモリー容量は、バイト数にして約24kバイトです。レコードボタンを押した時、残りバイト数が24kバイトから表示され、残容量なしでメモリーフルの表示になります。



[注意!]

- ・カウントの音量はリズムボリュームに連動します。従って、リズムボリュームが最小(MIN)の位置にあるとカウント音は鳴りません。
- ・ピアノABC機能を使って録音する場合は、トラック1を指定してください。すると、トラック1以外にトラック3も自動的に録音待機状態になります。トラック1には右手の演奏が、トラック3には伴奏が録音されます。
- ・ソロススタイルプレイ機能を使って録音する場合は、トラック1を指定してください。すると、トラック1以外にトラック3も自動的に録音待機状態になります。トラック1には右手の演奏と装飾音が、トラック3には伴奏が録音されます。
- ・ピアノABC機能やソロススタイルプレイ機能は、レコードボタンを押した時点で解除されます。これらの機能を使って録音する場合には、レコードボタンを押してから指定するようにしてください。
- ・トラックごとに別のリズムスタイルで録音することはできません。3トラックで1リズムスタイル固定です。



5 演奏の開始

鍵盤を押すと、演奏を開始した時点から録音が始まります。リズムを先にスタートさせたい場合は、スタート/ストップボタンを押してください。

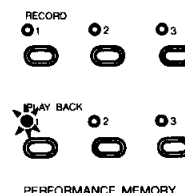
6 必要に応じて……

演奏のはじめにイントロや、途中でフィルイン、バリエーションパターンを入れたりすると効果的です。これらの操作も実際に録音されます。

7 演奏の終了

スタート/ストップボタン、イントロ/エンディングボタン、レコードボタンのいずれかを押し、演奏を終了します。

録音が終了するとトラック1のレコードボタンのランプが消灯し、トラック1のプレイバックボタンのランプが点灯してプレイの待機状態となります。



[注意！]

- ・録音の途中でピアノABC機能をオン/オフすることはできません。
- ・録音の途中でソロスタイルプレイ機能をオン/オフすることはできません。ただし、レフトペダルファンクションの設定がソロスタイルプレイの場合は、レフトペダルで行えます。
- ・録音の時に次のように機能を組み合わせることはできません。
 - ① スプリット機能、デュアル機能とソロスタイルプレイ機能
 - ② スプリット機能とピアノABC機能
- ・録音した内容は、電源を切っても約一週間記憶され続けます。保存する場合は、最低一週間おきに30分以上電源を入れるようにしてください。

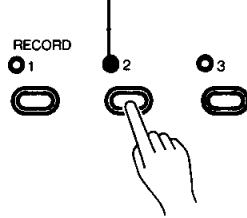
[こんなこともできる！]

- ・MIDI/トランスポーズボタンを押しながらマーチボタンを押すと、各ボリュームの機能が次のように変わります。必要に応じて録音時のコントロールに使用してください。
 - ・リズムボリューム ……モジュレーション
 - ・コード1ボリューム ……ピッチバンドアップ
 - ・コード2ボリューム ……ピッチバンドダウン
 - ・ベースボリューム ……エクスプレッション
- ただし、モジュレーション効果は録音できません。

●トラック2に録音する

トラック2のレコードボタンを押します。すると、4分音符のタイミングでカウント音が鳴り始めます。この状態で録音待機状態です。

トラック2のランプを点灯させる。

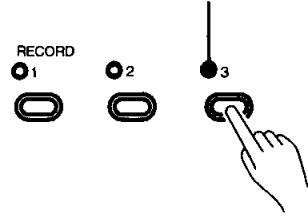


すでに録音済みのトラックを再生させながら録音する場合は、再生させるトラックのプレイボタンのランプも点灯させる。

●トラック3に録音する

トラック3のレコードボタンを押します。すると、4分音符のタイミングでカウント音が鳴り始めます。この状態で録音待機状態です。

トラック3のランプを点灯させる。



すでに録音済みのトラックを再生させながら録音する場合は、再生させるトラックのプレイボタンのランプも点灯させます。

[こんなこともできる!]

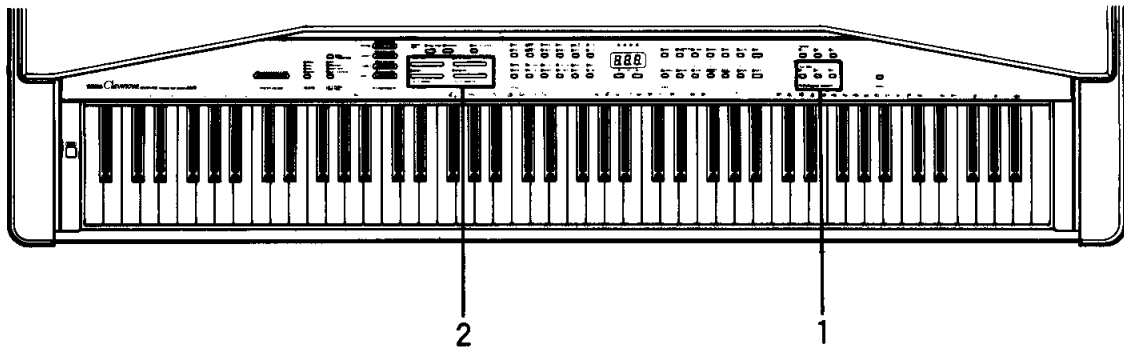
・録音の際に演奏を間違えてしまった場合は、以下のどちらかの方法で小節を進め、間違ったところから最後まで録音しなおすことで修正できます。録音しなおしたいトラックのレコードボタンを押して録音待機状態にし、MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、音色ボタンの1~0ボタンで希望する小節にする。(必ず3桁で指定します。たとえば5小節目の場合は005にします。)

なお、3桁入力と同時に自動的に再録音が始まります。スタート後、鍵盤を押した時点より演奏が修正され、鍵盤を押す以前の演奏はそのまま残ります。

ただし、ソロスタイルプレイで録音したソングのトラック1では、この操作による修正はできません。

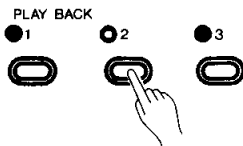
●演奏を再生させる

録音した自分の演奏を再生してみましょう。



1 トラックの選択

再生させたくないトラックがある場合は、そのトラックのプレイバックボタンを押してランプを消灯させます。



2 再生の開始

スタート方法を指定し、再生をスタートさせます。
(20ページ参照)

3 必要に応じて……

再生音に合わせて、音色を指定し他のパートを演奏することも可能です。

4 再生の終了

最後まで再生されると自動的に停止しますが、途中でスタート/ストップボタンやイントロ/エンディングボタンを押して終了させることも可能です。

★再生終了後は、再生待機状態になります。再生待機状態を解除する時は、プレイボタンを再度押してランプを消灯させてください。

[こんなこともできる!]

- ・テンポやリズムスタイルを変えて再生させたり、フィルインを入れることも可能です。

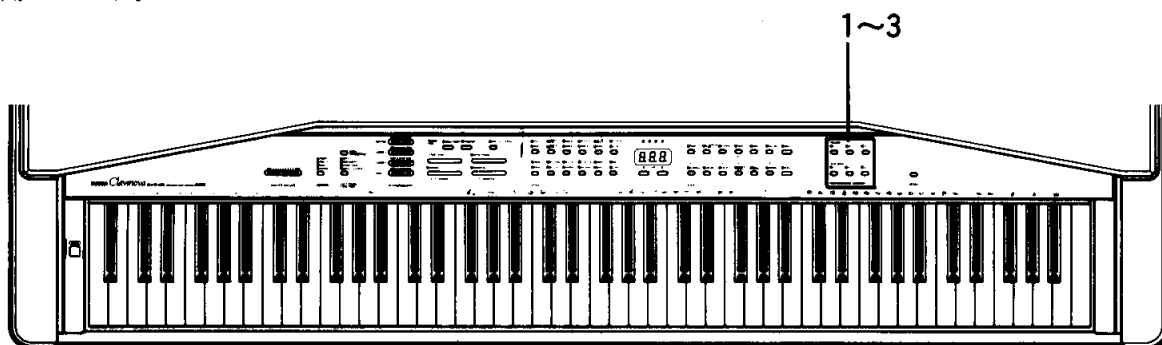
●記録内容について

記録内容は次のとおりです。なお、録音中に設定を変えた場合、実際にそのタイミングで記録されます。

- ・鍵盤情報
- ・音色選択(スプリットの場合は低音部の音色選択も含む。デュアルの場合はもう一方の音色選択も含む)
- ・リズムスタイル選択、テンポ
- ・イントロ、フィルイン、バリエーション、エンディング
- ・ピアノABCのオン/オフ(録音中は変更できない)
- ・シングルフィンガー/フィンガードの選択(録音中は変更できない)
- ・ソロスタイルプレイの選択(録音中は変更できない)
- ・スプリットポジション(録音中は変更できない)
- ・デュアルまたはスプリットのオン/オフ
- ・ペダル操作(ダンパー、ソフト、ソステヌート)
- ・リズムボリューム(ピアノABCまたはソロスタイルプレイの場合、コード1、2ボリュームとベースボリュームも含む)
- ・リバーブスイッチの効果選択およびリバーブの深さ
- ・ピッチベンド
- ・エクスプレッション

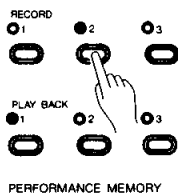
●多重録音について

多重録音は、もともとレコード制作の世界から生まれたテクニックです。まず最初にリズムスタイルを決めてトラック1に「基本にするパート」を録音。次にそれを再生しそれに合わせてトラック2に別のパートを録音。さらにトラック3にも……。これで完了です。最後に全てを一斉に再生できますから、あたかも大勢で一度に演奏しているように聞こえます。

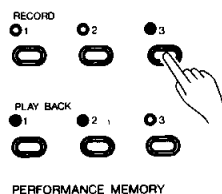


1 トラック1に右手パートを録音。

2 トラック1を再生させながら、トラック2に左手パートを録音。



3 トラック1、2を再生させながら、トラック3にオーケストラパートを録音します。



【注意！】

- ・録音済みのトラックに再録音すると、録音を開始させた時点で、そのトラックの前の内容が消えます。
- ・ピアノABC機能を使って再録音すると、録音を開始させた時点で、トラック1およびトラック3の前の内容が消えます。
- ・ソロスタイルプレイ機能を使って再録音すると、録音を開始させた時点で、トラック1およびトラック3の前の内容が消えます。

【こんなこともできる！】

- ・各トラックの初期音量は、MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ベースボリュームを操作することにより設定できます。
- ・以下の内容の初期設定は全トラック共通です。初期設定を変えたい場合は、該当するトラックのレコードボタンを押してからそれぞれの設定を変えてください。(ただし、レコードボタンを押した後に鍵盤を押したりスタート/ストップボタンを押したりすると、そのトラックの全ての内容が書き

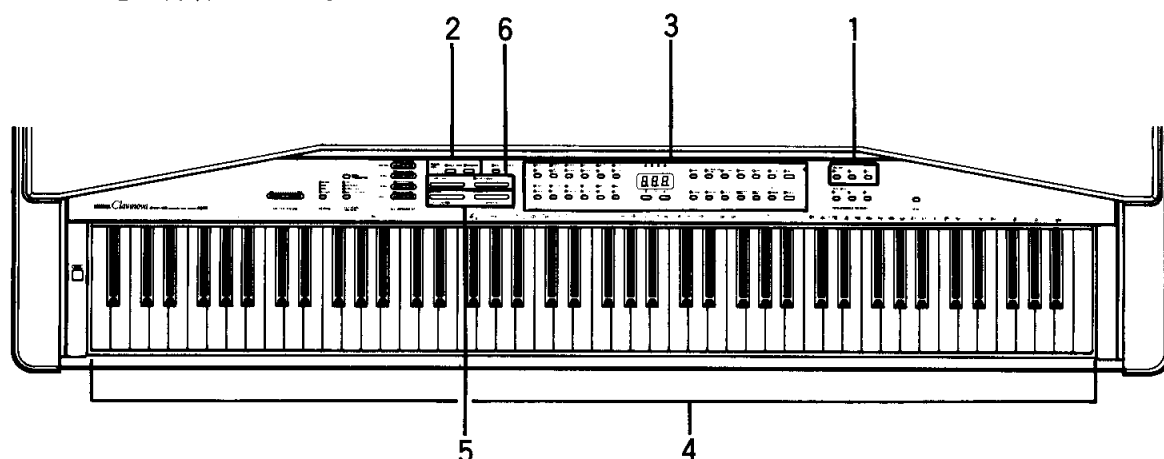
換わってしまいますので、初期設定を変える場合は充分注意してください。)

設定が終わったら、もう一度そのレコードボタンを押してランプを消灯させます。

- ・テンポ
- ・リバーブボタンの効果選択
- ・リズムスタイルの選択
- ・各トラックの初期音色
- ・各トラックの初期音量
- ・ピアノABC機能を使って録音済みの曲に、ソロスタイルプレイ機能をオンにして多重録音することも可能です。この場合はトラック1を録音状態、トラック3をプレイ状態、ソロスタイルプレイをオン状態にしてください。

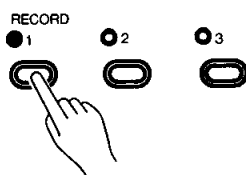
●ピアノABC録音をする

ピアノABCの状態です録音できます。



1 トラック1を録音状態にします。

トラック1のランプを点灯させる。



2 ピアノABCの状態にします。

PIANO ABC SINGLE FINGER FINGERED どちらかを選ぶ。



★トラック3のレコードボタンのランプが点灯します。

3 音色、リズムスタイル、テンポを指定します。

4 演奏の開始

鍵盤を押すと、その時点から録音が始まります。リズムを先にスタートさせたい場合は、スタート/ストップボタンを押してください。

5 必要に応じて……

演奏のはじめにイントロや、途中でフィルイン、バリエーションパターンを入れたりすると効果的です。これらの操作も実際に録音されます。

6 演奏の終了

スタート/ストップボタン、イントロ/エンディングボタン、レコードボタンのいずれかを押し演奏を終了します。

★録音が終了すると、トラック1とトラック3のレコードボタンのランプが消灯します。

[補足]

・右手パートがトラック1に、伴奏がトラック3に録音されます。

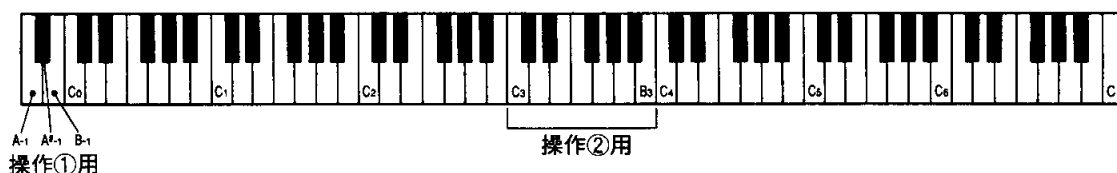
[こんなこともできる!]

・録音した内容を再生させながら、左手パートをトラック2に録音することもできます。

5. その他の機能

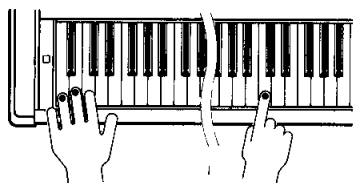
●他の楽器と音程を合わせる（ピッチコントロール）

合奏の時などに、他の楽器と正確に音程を合わせることができます。つまり微妙に音程が異なる場合は、この機能を使って他の楽器と音の高さを合わせることができます。



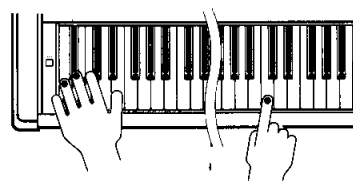
音程を上げる時

- 1 A-1とB-1の鍵盤を同時に押しながら、
 - 2 C₃～B₃のいずれかの鍵盤を押します。1回押すごとに少しずつ音程が上がっていきます。
- 音を聴きながらこきざみに音程を上げて、合わせてください。

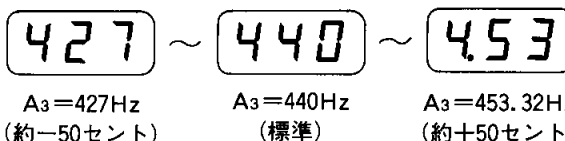


音程を下げる時

- 1 A-1とA[#]-1の鍵盤を同時に押しながら、
 - 2 C₃～B₃のいずれかの鍵盤を押します。1回押すごとに少しずつ音程が下がっていきます。
- 音を聴きながらこきざみに音程を下げて、合わせてください。



★±約50セントの範囲、約1.2セントステップで設定できます。（参考：100セント＝半音）
 なお、設定値はテンポ表示器に周波数で表示されます。



操作後約3秒経過すると、この表示からテンポ表示に切り替わります。

【こんなこともできる！】

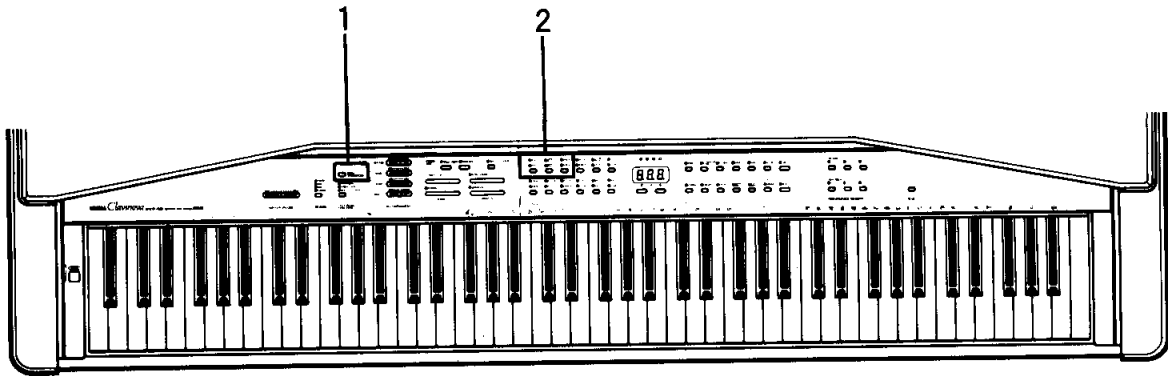
- ・テンポ表示器に表示されるのは、小数点以下が切り捨てられた周波数値です。テンポ表示器内の3つの点でおよその小数点以下の値を確認できます。
- 0.00～0.24：。。（消灯、消灯、消灯）
- 0.25～0.49：。。（点灯、消灯、消灯）
- 0.50～0.74：。。（消灯、点灯、消灯）
- 0.75～0.99：。。（消灯、消灯、点灯）

【補足】

- ・元の高さ（A₃=440Hz）に戻す時はパワースイッチをオンしなおすか、またはA-1、A[#]-1、B-1の3鍵盤を同時に押しながら、C₃～B₃のいずれかの鍵盤を押してください。
- ・電源を入れた時は、いつも元の高さに戻っています。（A₃=440Hz）

●タッチの感度を変える

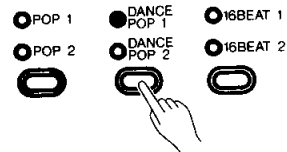
CVP-45では、ピアノとほぼ同じように押鍵の強弱で、ピアノシモからフォルテシモまで音の大小(演奏の抑揚)を表現できます。ここでは、この押鍵の強弱に対する感度を変更できます。



1 MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、



2 該当するスタイルボタンを押します。



- ・ポップ1/ポップ2:
強いタッチでも弱めの音になります。(ハード)
- ・ダンスポップ1/ダンスポップ2:
通常のピアノタッチです。(ミディアム)
- ・16ビート1/16ビート2:
弱いタッチでも強めの音になります。(ソフト)

[補足]

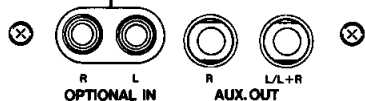
・電源を入れた時は、いつも元の設定(ミディアム)に戻っています。

●他の機器と接続する

各部の付属端子を使って、各機器と接続できます。

オプション入力端子(ピンジャック)

外部の製品の音をCVP-45でいっしょに鳴らすことができます。

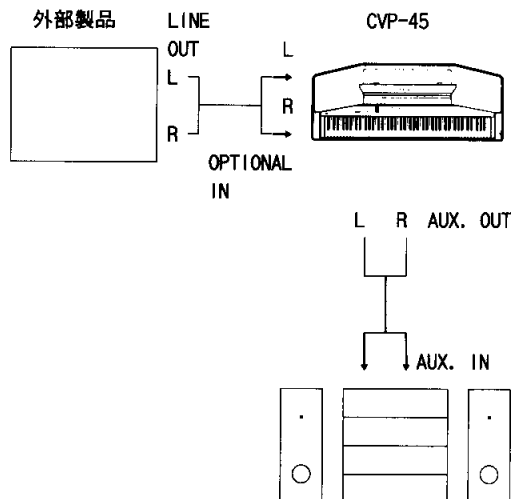


AUX出力端子(フォーンジャック)

ステレオなどに接続して、より大きな音を出したり、演奏を録音することができます。ステレオに接続した時はCVP-45のボリュームは8分目にして、ステレオのボリュームで音量を調節してください。

接続例

オプション入力端子から入力した外部製品の音と、CVP-45の音をまとめてステレオで鳴らす。



*AUX. OUTからCVP-45と外部製品の音が両方出ます。

【注意！】

- ・オプション入力端子からの入力に対しては、内蔵のリバース効果はかかりません。

【補足！】

- ・ヘッドホン端子の説明については、1ページをご覧ください。

6. MIDI機能でステップアップ

●MIDIとは？

MIDIという言葉はミュージカル・インストゥルメント・デジタル・インターフェイス (Musical Instrument Digital Interface) の頭文字をとったもので、“ミディ”と読みます。MIDIは、2台以上のMIDI製品を接続して、それらの間で、演奏にまつわる様々なコントロールをさせようという目的で考え出された世界統一規格です。つまりMIDI機能は、他のMIDI規格の製品と接続して初めて使い道があるわけです。

(MIDI製品には必ずMIDI端子があります。)

●CVP-45のMIDI端子

CVP-45には、次のように3種類のMIDI端子があります。(どのMIDI製品を見ても、実はこの3種類以外にはMIDI端子はありません。)



MIDI OUT (ミディアウト)

CVP-45での演奏内容等が出力されます。

MIDI IN (ミディイン)

他のMIDI製品からの演奏内容等を入力できます。

MIDI THRU (ミディスルー)

CVP-45のMIDI IN端子から入力した演奏内容等が、そのまま出力されます。(つまり、さらに別の製品にも同じ内容を送ることが可能)

★MIDI接続には、別売のMIDIケーブルが必要です。

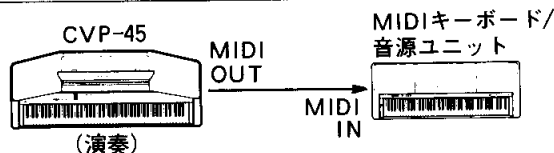
●MIDIでできること

「MIDIでどんなことができるか?」、それは接続した機器との相性で決まります。簡単にいえば、両製品が共通して持っているMIDI機能に関して、やりとりできる可能性があります。

MIDI製品と一口にいっても実に様々なものがありますので、ここでは代表的なものを選んで“できること”を紹介します。接続する製品の取扱説明書も併わせてご覧ください。

MIDI OUT端子を使ってできること

◆MIDIキーボードまたは音源ユニットを接続した場合



★CVP-45で演奏すると、接続した製品もそれ自身の音色で同時に鳴り、音に厚みができます。

★CVP-45で音色を切り替えると、接続した製品の音色も同時に切り替わります。

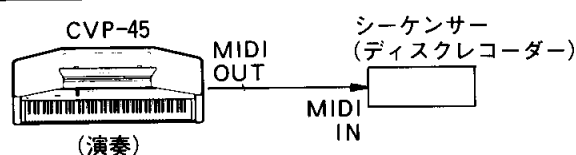
★この他に下記のように情報を出力する機能があります。相手側が情報を受けてどう対応するかは、相手側のMIDI機能によって決まります。

- ・ペダルを操作した時……ペダルの機能に対応した情報を出力
- ・パネルデータの送信機能を使った時、またはパネルデータ・バルクダンプリクエストを受信した時……パネル上の設定状態等を出力

※MIDIとは直接は関係ありませんが、相手側の音をCVP-45のオプション入力端子 (OPTIONAL IN) から入力して、CVP-45のスピーカーでいっしょに鳴らすこともできます。

※CVP-45もMIDIキーボードです。したがって相手側のMIDIキーボードとして、もう1台のクラビノーバを用いることも考えられます。

◆MIDIシーケンサーを接続した場合



★CVP-45で演奏する内容を、MIDIシーケンサー (ディスクレコーダー) に記録できます。

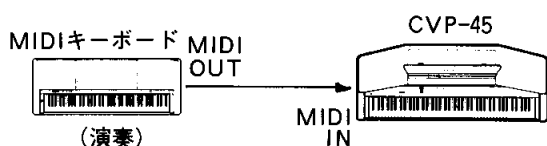
*ここで一つお断りしておきますが、パフォーマンスメモリーで演奏内容を保存させることを他の項では録音と言っていますが、厳密に言えばこれも記録です。(他ではこの違いがあまり問題とならないのと同時に、一般的には録音という言葉の方が受け入れられやすいため、あえてこのようにしています。) さらに詳しく言えば、演奏内容を保存させることができる機械にテープレコーダーがありますが、この場合は音そのものを保存させるわけですから録音です。

それに対し、パフォーマンスメモリーやシーケンサーで保存させるのは、音そのものではなく、後で音を出さることができるように音を出すためのデータを保存するため、こちらは記録です。事実、シーケンサーを再生する時には音を出す製品(MIDIキーボードや音源ユニットといわれるもの)を組み合わせなければ音にはなりません。これからMIDIシーケンサーを使おうと思っている方は、このあたりの概念をまずはしっかりと理解してください。

★音色の切替情報や様々なエクスクルーシブ情報を記録できます。(前項の”MIDIキーボードまたは音源ユニットを接続した場合”で紹介した情報全て、およびその他)

MIDI IN端子を使ってできること

◆MIDIキーボードに接続した場合



★外部のMIDIキーボードで演奏すると、CVP-45も

CVP-45自身の音色で同時に鳴り、音に厚みがでま

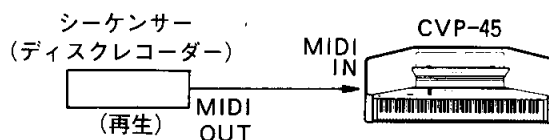
★外部のMIDIキーボードで音色を切り替えると、

CVP-45の音色も同時に切り替わります。

★この他に下記のような情報を入力してCVP-45をコントロール可能です。

- ・ペダル効果(ダンパー、ソフト等)をコントロールする情報
- ・パネルデータバルクダンプのリクエスト情報
- ・音量等のパネル情報

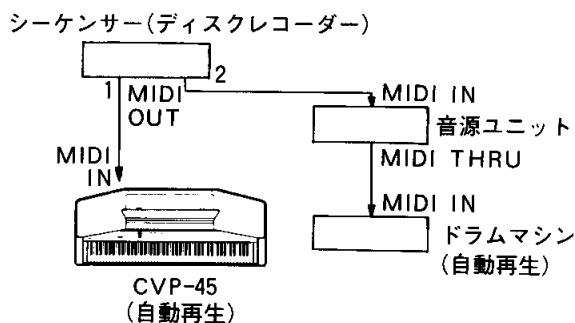
◆MIDIシーケンサーに接続した場合



★MIDIシーケンサー(ディスクレコーダー)に記録済みの演奏内容を、CVP-45の音色で再生できます。

MIDI THRU端子の使い方

MIDI THRU端子はシステム接続する時に便利です。MIDI THRU端子を使った接続として、たとえば次のようなシステムが考えられます。



★これは、MIDIシーケンサー(ディスクレコーダー)の再生クロックに合わせてCVP-45も再生させ、シーケンサー内の演奏データは音源ユニットで鳴らすという自動演奏システムです。さらにドラムマシンにより、リズムを加えています。

※この図では、アンプやスピーカーを省略してあります。

●MIDI関係の設定・機能

MIDIの機能を使う場合にもやはり設定が必要です。
(設定しなくてもたまたま動くこともありますが……)

◆MIDIチャンネルの設定

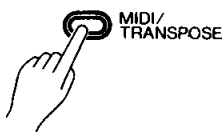
MIDIの世界にも、テレビと同じようにチャンネルがあります。MIDIには1から16チャンネルまであり(テレビの場合は1から62ですね)、ほとんどのMIDI情報に”これは〇〇チャンネルに対するものだよ”という信号が含まれています。そもそもなぜチャンネルが必要かという、たとえばシーケンサーを再生した場合、シーケンサーのMIDI OUT端子からはいくつものチャンネルの情報が次々に出力されます。そしてそれらは1本のMIDIケーブルの中をいっしょに流れます。幸いにして各情報にはMIDIチャンネルが付けられていますので、受信側の製品でチャンネルを指定してやれば、それらの中から必要なチャンネルの情報だけを選んで受け取ることができるわけです。

そして、最も一般的な接続であるMIDIキーボードとMIDIキーボードの接続の場合にも、送信側の送信チャンネルと受信側の受信チャンネルを一致させなければ、受信側で情報を受け取ることができません。チャンネルを一致させてはじめて受信側で音を鳴らすことができるのです。

※チャンネルの信号が含まれていると都合の悪い情報には、チャンネル信号は逆に含まれていません。

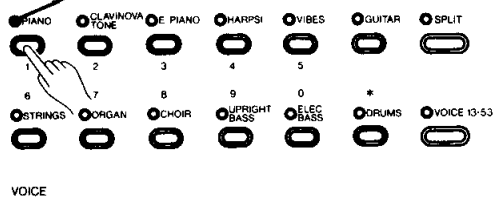
送信チャンネルの設定方法

①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、



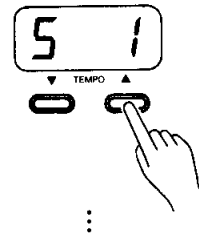
②ピアノボタンを押します。そして、ピアノボタンだけを離します。

ランプが点灯する。

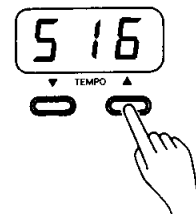


③MIDI/トランスポーズボタンを押したままの状態、テンポボタンを押して、テンポ表示器に希望するチャンネルNo.を表示させます。

・送信チャンネル1にする場合……



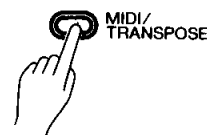
・送信チャンネル16にする場合……



★電源を入れた時は、必ず送信チャンネル1となっています。

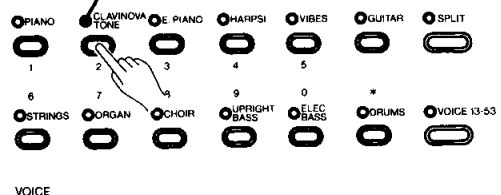
受信チャンネルの設定方法

①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、



②クラビノーバトーンボタンを押します。そして、クラビノーバトーンボタンだけを離します。

ランプが点灯する。

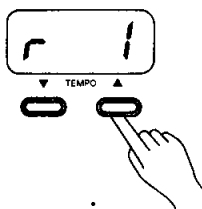


③MIDI/トランスポートボタンを押したままの状態
で、テンポボタンを押して、テンポ表示器に
希望するチャンネルNo.を表示させます。

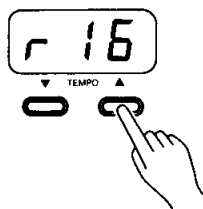
・オムニオンにする場合……



・受信チャンネル1にする場合……



・受信チャンネル16にする場合……



★電源を入れた時は、必ずオムニオンの状態となっ
ています。

※オムニオンは、送信チャンネルに関係なく、全ての
チャンネルメッセージ(鍵盤、ペダル、音色スイッ
チ等)を受信する状態です。

◆ローカルコントロールオン/オフの切替

ローカルコントロールオフという状態にすると、CV
P-45で演奏したにもかかわらずCVP-45自身では鳴ら
なくなります。ただしMIDI OUT端子からは、オン/
オフにかかわらず演奏情報が出力されます。

つまりローカルコントロールオフは、あえて外部の製
品側だけで鳴らしたい場合に、CVP-45で音が出ない
ようにするためのものです。(ただし、自動伴奏の音
やディスクの再生音は出ます。押鍵音のみ出なくなり
ます。)

オン/オフの切替方法

①MIDI/トランスポートボタンを押しながら、

②エレクトリックピアノボタンを押します。

- ・ローカルコントロールオフにする場合……
エレクトリックピアノボタ
ンのランプを点灯させる。
- ・ローカルコントロールオンに戻す場合……
エレクトリックピアノボタ
ンのランプを消灯させる。

★CVP-45を受信側にした場合は、この設定は一切関
係ありません。

★電源を入れた時は、必ずローカルコントロールオン
となっています。

◆プログラムチェンジオン/オフの切替

プログラムチェンジオフという状態にすると、CVP-
45で音色を切り替えても、MIDI OUT端子へ音色の
切替情報を出力しなくなります。また、MIDI IN端
子から音色切替情報を受けてもCVP-45の音色は切り
替わらなくなります。

つまり、CVP-45だけで単独に音色を切り替えたい場
合(他の機器と音色切替を連動させたくない場合)には、
プログラムチェンジオフにしてください。

オン/オフの切替方法

①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、

②ハープシコードボタンを押します。

- ・プログラムチェンジオフにする場合………
ハープシコードボタンのランプを点灯させる。
- ・プログラムチェンジオンに戻す場合………
ハープシコードボタンのランプを消灯させる。

★電源を入れた時は、必ずプログラムチェンジオンとなっています。

◆コントロールチェンジオン/オフの切替

コントロールチェンジオフという状態にすると、CVP-45でペダルなどを操作しても、MIDI OUT端子へそれらの情報を出力しなくなります。また、MIDI IN端子からそれらの情報を受けても、CVP-45はそれに応じなくなります。

つまり、CVP-45だけで単独にペダルを操作したい場合には、コントロールチェンジオフにしてください。

オン/オフの切替方法

①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、

②パイプボタンを押します。

- ・コントロールチェンジオフにする場合………
パイプボタンのランプを点灯させる。
- ・コントロールチェンジオンに戻す場合………
パイプボタンのランプを消灯させる。

★電源を入れた時は、必ずコントロールチェンジオンとなっています。

◆マルチティンバーモードオン/オフの切替

マルチティンバーモードオンという状態にすると、チャンネル1~10および15のチャンネルの情報を、同時に受信できるようになります。(チャンネル15はリズム専用です)

たとえばディスクレコーダー(MIDIシーケンサー)に記録されている複数のチャンネルの演奏情報をCVP-45に受信させ、それぞれの音色で同時に鳴らしたい時に、マルチティンバーモードオンにします。

マルチティンバーモードオンにすることにより、次の表のように情報を受信できます。

ファンクション	CH 1	CH 2	CH 3	CH 4	CH 5	CH 6	CH 7	CH 8	CH 9	CH 10	CH 15
プログラムチェンジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ボリューム、 エクスプレッション	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
サスティン、 モジュレーション、 パンポット、 ダンパーペダル、 ソステヌートペダル、 ソフトペダル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
オールノート オフ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ローカル コントロール オン/オフ	設定受信チャンネルで受信可能										

- ・○は受信可能、×は受信不可能を意味します。
- ・プログラムチェンジが送られて来れば、対応する音色に切り替わります。
- ・チャンネル15の情報には本機のリズムが対応(チャンネル15はリズム専用)しますが、プログラムチェンジの0~23、98、99でリズム変更が可能です。リズムを鳴らさずに4拍子を保持させる場合はプログラムチェンジを99、3拍子を保持させる場合は98に設定してください。なお、プログラムチェンジ98および99は他のキーボード等を使ってメモリーします。

オン/オフの切替方法

①MIDI/トランスポートボタンを押しながら、

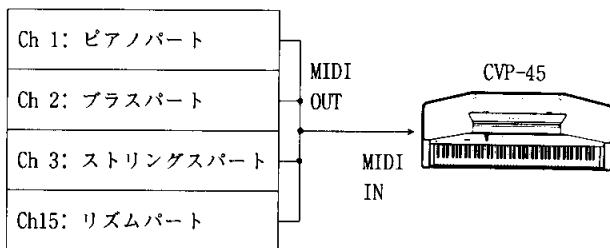
②ギターボタンを押します。

- ・マルチティンバーモードオンにする場合……
ギターボタンのランプを点灯させる。
- ・マルチティンバーモードオフに戻す場合……
ギターボタンのランプを消灯させる。

★CVP-45を送信側にした場合は、この設定は一切関係ありません。

★マルチティンバーモードの代表的な使用例は次のとおりです。

シーケンサー(ディスクレコーダー)
(再生)



これらのパートの音をCVP-45のそれぞれの音色で鳴らす。

つまり(別々のチャンネルで)シーケンサーに記録された様々なパートの演奏を、CVP-45を1台で再生できます。

★電源を入れた時は、必ずマルチティンバーモードオフとなっています。

★同時に発音できるのは1~10、15チャンネル合計で16音までです。

◆スプリット送信モードオン/オフの切替

ピアノABCやスプリットの状態の時に、スプリット送信モードオンという状態にすると、低音部と高音部の演奏(ノートオン/オフ)情報が、異なったチャンネルNo.で送信されるようになります。

「CVP-45上で低音部と高音部を異なった音色で鳴らすばかりでなく、外部の製品側でもそうしたい。」という場合、スプリット送信モードオンにしてください。

設定方法

①MIDI/トランスポートボタンを押しながら、

②ストリングスボタンを押します。

- ・スプリット送信モードオンにする場合……
ストリングスボタンのランプを点灯させる。
- ・スプリット送信モードオフにする場合……
ストリングスボタンのランプを消灯させる。

★低音部の演奏情報はMIDIチャンネル2で送信されますので、外部の製品のMIDI受信チャンネルを2に合わせてください。

また高音部の演奏情報は”MIDIチャンネルの設定”のところで指定したMIDIチャンネルで送信されます。

★低音部と高音部の演奏情報を、MIDIシーケンサーに別々のチャンネルで記録することも可能です。

★CVP-45を受信側にした場合は、この機能は一切関係ありません。

★電源を入れた時は、必ずスプリット送信モードオフとなっています。

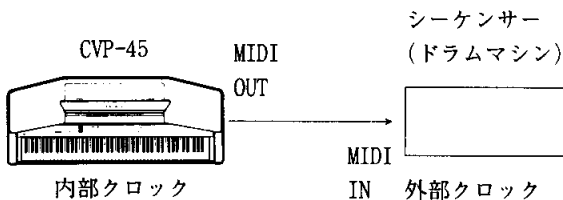
◆外部クロック/内部クロックの切替

本機のリズムを制御するクロックを選択できます。外部クロックにすると、CVP-45のリズムの速さが外部のシーケンサーやドラムマシンによってコントロールされるようになり、内部クロックにすると、CVP-45のリズムの速さはCVP-45自身によってコントロールされるようになります。

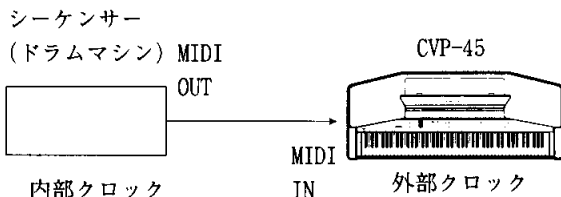
設定方法

- ①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、
- ②オルガンボタンを押します。
 - ・外部クロックにする場合……オルガンボタンのランプを点灯させる。
 - ・内部クロックにする場合……オルガンボタンのランプを消灯させる。

★外部のシーケンサーやドラムマシンの再生スピードを、CVP-45のリズムの速さに合わせる場合は、次のようにセットしてください。



★CVP-45のリズムの速さを、外部のシーケンサーやドラムマシンの再生スピードに合わせてる場合は、次のようにセットしてください。



★電源を入れた時は、必ず内部クロックとなっています。

◆パネルデータの送信

パネル上の設定状態をシーケンサーに記録したり、別のCVP-45のパネル上の設定をCVP-45に合わせる事ができます。

シーケンサーに演奏情報を記録する前にパネル情報を記録しておけば、後でシーケンサーを再生した時、自動的にCVP-45の状態が記録した時の状態に切り替わります。

送信方法

- ①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、
- ②クワイアボタンを押します。すると、すぐに送信が開始されます。

◆パフォーマンスデータの送信

パフォーマンスメモリーに記録したデータを、シーケンサーや別のCVP-45のパフォーマンスメモリーに送ることができます。

送信方法

- ①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、
- ②アップライトベースボタンを押します。すると、すぐに送信が開始されます。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
 ☆MIDIデータフォーマットが必要なお客様は、ご
 ☆愛用者カードにてご請求ください。☆☆
 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

CVP-45

Date: 1991.8.27

Version: 1.0

MIDIインプリメンテーションチャート

ファンクション...	送	信	受	信	備	考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1チャンネル 1~16チャンネル	1チャンネル 1~16チャンネル			
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *****	モード1 オムニ・オン、オムニ・オフ ×			
ノート ナンバー	音域	21~108 *****	21~108 21~108			
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○ 9nH、v=1~127 × 9nH、v=0	○ v=0~127 ×			
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×			
ピッチ・ベンダー		○	○			
コントロール チェンジ	01	○	○	モジュレーション ボリューム パンポット エクスプレッション ダンパーペダル ソステヌートペダル ソフトペダル リバーブデプス		
	07	○	○			
10	×	○				
11	○	○				
64	○	○				
66	○	○				
67	○	○				
91	○	○				
121	×	○	リセットオール コントローラー※1			
プログラム チェンジ	設定可能範囲	○ 0~52 *****	○ 0~127 0~127			
エクスクルーシブ		○	○			
コモン	ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × ×	× × ×			
リアル タイム	クロック コマンド	○ ○	○ ○			
その他	ローカルON/OFF オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット	× × ○ ×	○ ○ (123~125) ※1 ○ ×			

備考 ※1 121および123のみオムニ・オフ時またはマルチティンバーモード・オン時に受信可能

モード1：オムニ・オン、ポリ
モード3：オムニ・オフ、ポリ

モード2：オムニ・オン、モノ
モード4：オムニ・オフ、モノ

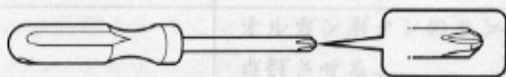
○：あり
×：なし

7. 資料

●CVP-45の組み立て方

- ・部品をまちがえたり、取り付けの向きを間違えないように注意しながら、手順どおり組み立ててください。
- ・解体する時は、組み立てと逆の手順で行ってください。
- ・組み立ては2人以上で行ってください。1人で無理に組み立てようとすると、傷をつけたり、製品に悪い影響を与えることがあります。また、毛布などの柔らかい布の上で組み立てられることをお勧めします。

1. + (プラス) のドライバーを用意します。



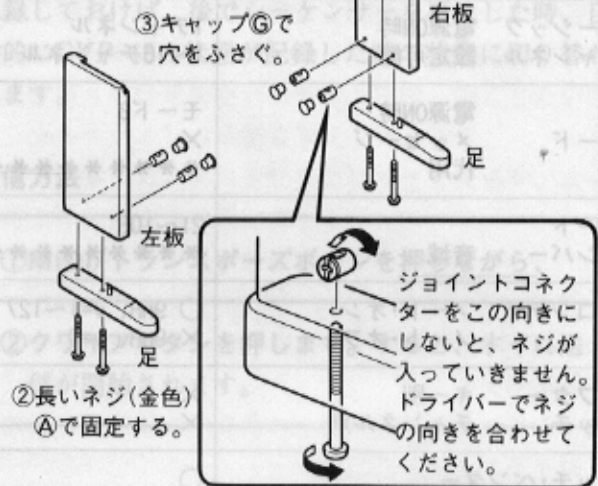
2. 箱を開けて部品を取り出します。そして部品が全てそろっているか確かめてください。

ネジセット VL17570

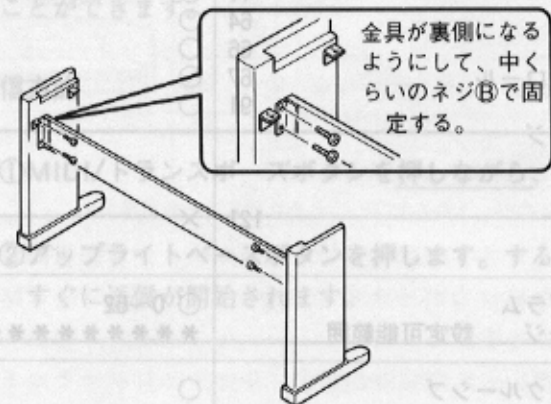
①長いネジ(金色)	②中くらいのネジ	③短いネジ
4本	6本	6本
④小さいネジ(短)	⑤小さいネジ(長)	⑥ジョイントコネクター
2本	4本	4ヶ
⑦キャップ		
4ヶ		

3. 右板と足、左板と足を固定します。

①ジョイントコネクター⑥を、ドライバーで奥まで押しこむ。

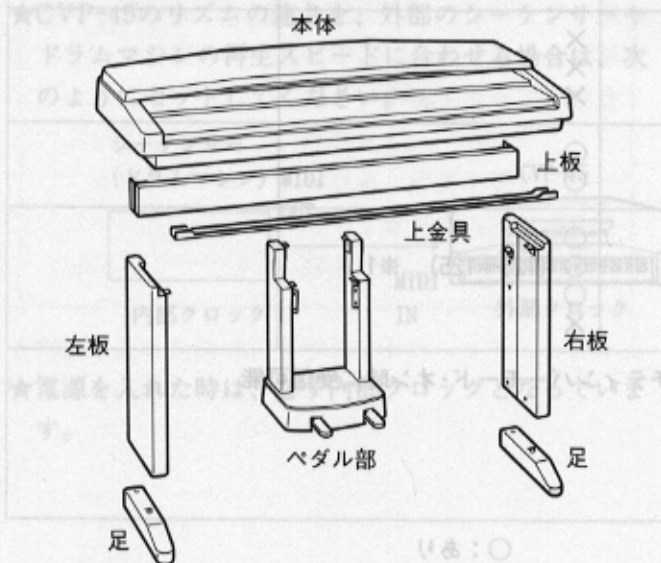
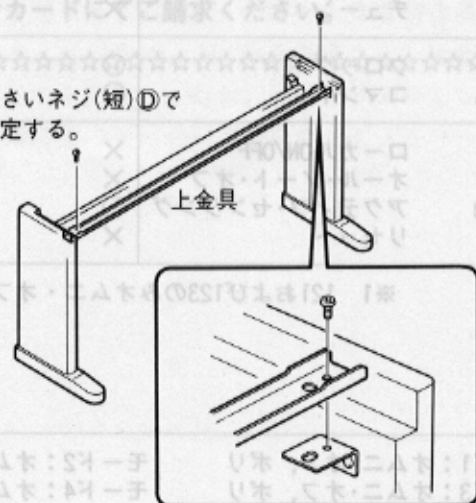


4. 上板を固定します。



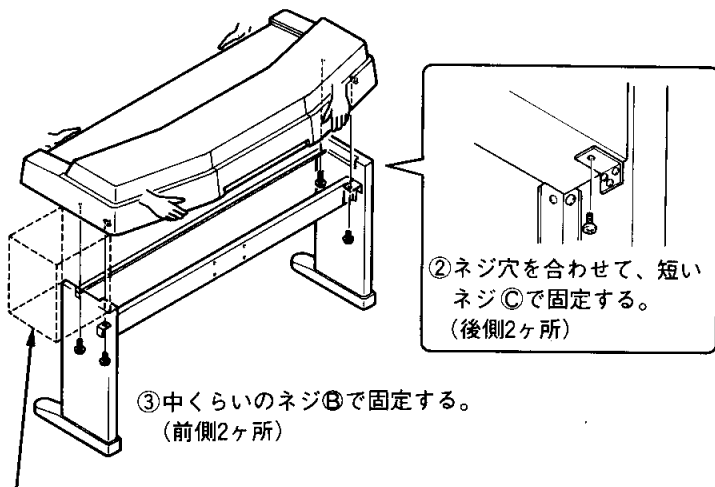
5. 上金具を固定します。

小さいネジ(短)④で固定する。



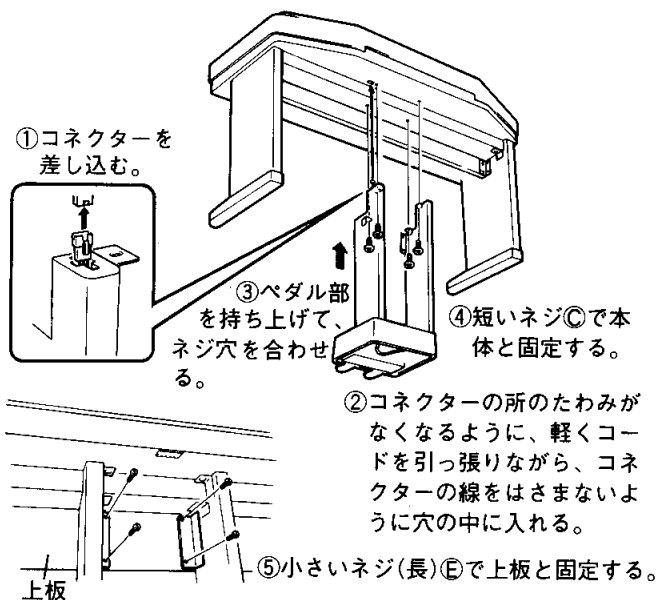
6. 本体を固定します。

①手をはさまないように充分注意しながら、本体を載せる。

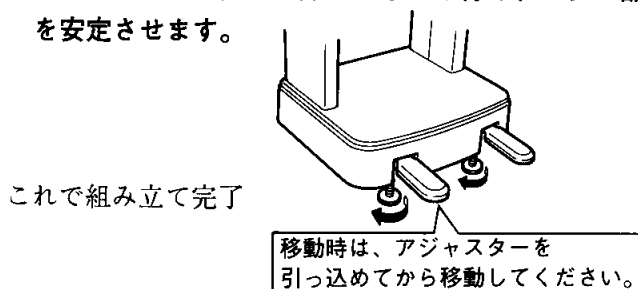


この点線の範囲に手がいかないようにしてください。
はさまれやすく危険です。(反対側も同様です。)

7. ペダル部を取り付けます。



8. アジャスターを回して床にぴったり付け、ペダル部を安定させます。



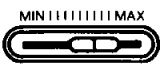



※引っ越しなどでクラビノーバを移動した場合は、各ネジを締め直してください。

●楽譜

パフォーマンスメモリー機能を使ってピアノABCとオブリガートを録音し、それに合わせて弾いてみましょう。
(26ページ参照)

- ①まず、トラック1のレコードボタンをオンにして、ピアノABCを録音します。
- ②トラック2にオブリガートを録音します。
- ③それらを、再生させながらメロディーを弾きます。

セッティング

リズムスタイル	ポップ1 (ノーマル)	リズム ボリューム	RHYTHM 
テンポ	♩=66	コード1 ボリューム	CHORD 1 
ピアノABC	フィンガード	コード2 ボリューム	CHORD 2 
スプリット ポジション	F# ₂	ベース ボリューム	BASS 
オブリガート 音色	ジャズオルガン (音色番号29)	メロディー 音色	好みの音色で!

いとしのエリー

作詞・作曲：桑田桂祐

INTRO スタート (1×休み)



1. 2.

FILL TO NORMAL FILL TO VARIATION

F G C F G C A₇

Dm G Em Am Dm G Em Am

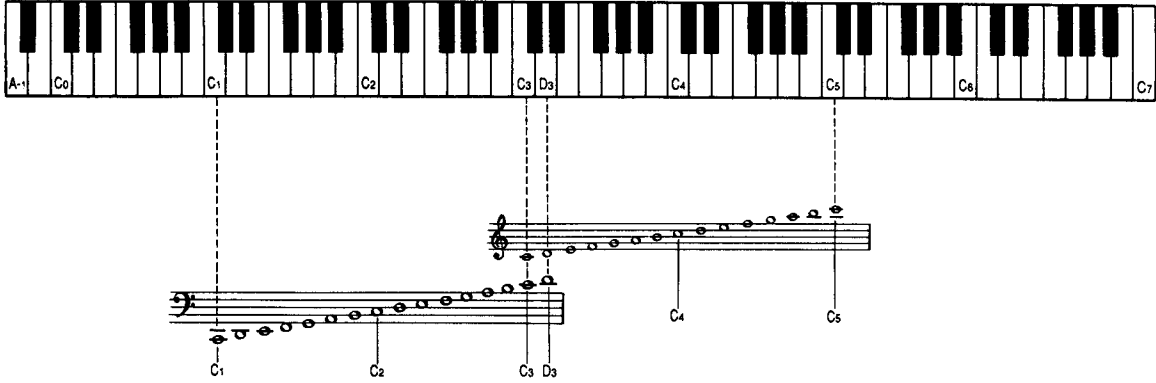
F G Em A F G C D₇

ENDING

F G C

●楽譜の読み方

■鍵盤と五線譜の関係



■音符と休符の長さ

音符		休符	
音符の種類と名称	4分音符と比較した長さ	休符の種類と名称	4分音符と比較した長さ
○ 全音符	4つ分のぼす	— 全休符	4つ分休む
♪ 付点2分音符	3つ分のぼす	— 付点2分休符	3つ分休む
♪ 2分音符	2つ分のぼす	— 2分休符	2つ分休む
♪ 4分音符		♪ 4分休符	
♪ 8分音符	♪(♪♪) 半分にする	♪ 8分休符	♪(♪♪) 半分休む
♪ 16分音符	♪(♪♪♪♪) 1/4にする	♪ 16分休符	♪(♪♪♪♪) 1/4だけ休む
♪♪♪ 3連音符	♪ 3等分する		

(♪♪♪ は♪を3等分)

■記号の意味

記号と読み方	意味	記号と読み方	意味
# シャープ	半音上げる	: : リピート	くりかえし。
b フラット	半音下げる	1. 2. : 1番かっこ 2番かっこ	くりかえしのあと「2」へ。
♪ ナチュラル	もとの音にもどす	D.C. ダカーボ	最初からくりかえし。 <i>Fine</i> D.C.
♪ タイ	音を続ける	D.S. ダルセーニョ	記号 * からくりかえし。 <i>Fine</i> D.S.
♪ スラー	なめらかに	☉ Coda コーダ	くりかえしのあと☉から☉Codaへ。
⦿ フェルマータ	その音をのぼす		
Tacet タセット	伴奏を休む		
<i>Fine</i> フィーネ	おわり		

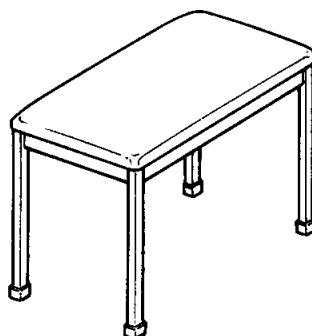
●仕様

- 鍵盤：88鍵(A-1～C7)イニシャルタッチ付
- 音色(53種類)：ピアノ、クラビノーバトーン、エレクトリックピアノ、ハーブシコード、バイブ、ギター、ストリングス、オルガン、クワイア、アップライトベース、エレクトリックベース、ドラムス、ブラス、ポップブラス、トランペット、ミュートトランペット、ホルン、サクソソロ、サクソソフト、クラリネット、オーボエ、フルート、アコーディオン、ハーモニカ、ストリングスソフト、バイオリン、バイオリンハード、フルオルガン、ジャズオルガン1、シンセブラス、シンセウッド、シンセストリングス、シンセクワイア、ピアノブライト、ピアノソフト、エレクトリックピアノDX、シンセクリスタル、チェレスタ、マリンバ、フォークギター、ジャズギター1、ジャズギター2、ロックギター1、ロックギター2、ミュートギター、バンジョー、ピチカート、ハーブ、アップライトベースソフト、エレクトリックベースソフト、エレクトリックベースヘビー、シンセベース、ティンパニドラムス(打楽器音41種)；バスドラム(ノーマル、ライト)、スネアドラム(ヘヴィ、ライト、エコー)、リムショット、スネアドラム+リム(ヘヴィ、ライト)、ブラッシュ(ロール、ショット)、ハイハット(ペダル、クローズヘヴィ、クローズノーマル、オープン)、タム1～4(ノーマル)、ライドシンバル(ノーマル、カップ)、クラッシュシンバル(ノーマル、ライト)、コンガ(ロー、ハイ)、カバサ、ボンゴ(ロー、ハイ)、クラベス、カスターネット、カウベル、ティンバル(ロー、ハイ)、クイーカ(ロー、ハイ)、ハンドクラップス、アゴゴ(ロー、ハイ)、タンバリン、トライアングル(クローズ、オープン)、メトロノーム
- 効果：リバーブ、トランスパーザー、ピッチコントロール、ソフト、ソステヌート、ダンパー
- リズム
内蔵リズム24種類：ポップ1,2、ダンスポップ1,2、16ビート1～3、ロックンロール、スローロック、シャッフル、カントリー1,2、スウィング1,2、ビッグバンド、ブギー、ボサノバ、サンバ、チャチャ、ルンバ、マーチ、マーチ6/8、ワルツ、ジャズワルツ、(メトロノーム4/4,3/4)
コントロール；スタート/ストップ、イントロ/エンディング、フィル トゥ ノーマル、フィル トゥ バリエーション、テンポ、ビートランプ、テンポ表示器、リズムボリューム、ドラム音色使用時用鍵盤、低音側鍵盤
- ピアノABC： シングルフィンガー、フィンガード、フルキーボードABC、スプリットポジション
コントロール；コード1,2ボリューム、ベースボリューム
- パフォーマンスメモリー：3トラック録音/再生
コントロール；レコード(1、2、3)、プレイバック(1、2、3)
- レフトペダルファンクション：ソフト、スタート/ストップ、ソロスタイルプレイ、ソステヌート
- その他コントロール：パワースイッチ、マスターボリューム、MIDI/トランスポーズ、ソロスタイルプレイ、スプリット、デモ
- 付属端子：ヘッドホン端子、オプション入力端子(L,R)、AUX出力端子(L/L+R,R)、MIDI端子(IN, OUT, THRU)
- メインアンプ：60W(30W×2)
- スピーカー：13cm×2、5cm×2
- 定格電源：AC100V 50/60Hz
- 消費電力：50W
- 外装：仕上げ；ブラック/ブラックローズウッド調仕上げ
間口；1415mm 奥行；562mm
高さ；795mm 重量；59kg
- 装備：スライド式キーカバー、折りたたみ式譜面立て
- 付属品：取扱説明書(基本編)×1
取扱説明書(応用編)×1
フィンガードコード/シングルフィンガーコード一覧表×1

●オプション（別売品）のご紹介

ヘッドホン・HPE-6 ¥5,500

イス・BC-7 ¥8,000



※表示の価格には、消費税は含まれていません。

●発音数一覧表

ここでは、各モードにおける同時発音数を表にします。

リズム	ピアノ ABC	デュアル	スプリット	同時発音数
×	×	×	×	演奏音16音
○	×	×	×	リズム4音、演奏音12音
○	○	×	×	リズム4音、ピアノABC7音、 演奏音5音
×	×	○	×	演奏音8音
×	×	×	○	低音部+高音部合わせて16音
○	×	○	×	リズム4音、演奏音6音
○	×	×	○	リズム4音、 低音部+高音部合わせて12音
○	○	○	×	リズム4音、ピアノABC7音、 演奏音2音

○：機能オン

×：機能オフ

※音色により、発音数が上表より減ることがあります。

※パフォーマンスメモリーに重ねて弾く時は、パフォーマンスメモリーで使用した音数だけ演奏音が減ります。

●おかしいな？と思ったら

おかしいな？と思ったら、この表を見てください。

現象	原因	解決法
パワースイッチをオンまたはオフにした時、“カチ”と音がする。	電気が流れたため。	ご心配ありません。
スピーカーから出る音が小さい！ 全く音が出ない。	音量が下がっている。	マスターボリュームを上げてください。
	ヘッドホン端子にプラグを差しているため。	プラグを抜いてください。
	ローカルコントロールオフになっている。	MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、エレクトリックピアノボタンを押してください。
リズムがスタートしない/ リズムの音が出ない。	外部クロックの状態になっている。	MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、オルガンボタンを押してください。
	リズムボリュームが下がっている。	リズムボリュームを上げてください。
	スタートさせていない。	スタートボタン等を押してください。
	シンクロスタート待ちの状態になっている。	低音部の鍵盤を押してください。
低音部の音が出ない。	コードボリュームまたはベースボリュームが下がっている。	コードボリュームまたはベースボリュームを上げてください。
	高音部側を弾いている。	スプリットポジションよりも低音部側で弾いてください。
自動伴奏されない。	ピアノABCの状態になっていない。	ピアノABCボタンを押してシングルフィンガーまたはフィンガードの状態にしてください。
	フィンガードの状態で、シングルフィンガーの押え方をしている。	付属の“フィンガードコード一覧表”等をご覧ください。
途中から音階がおかしくなる。	低音部の鍵盤を押している。	シングルフィンガーやフィンガードの状態になっているためですから、そのようになります。
思ったとおりの和音が出ない。	指を離さないうちに、次のコードにしようとしている。	鍵盤から一旦指を離したうえで、次の鍵盤を押すようにしてください。
	正確に押さえていない。	付属の“シングルフィンガーコード一覧表”または“フィンガードコード一覧表”等をご覧ください。
左ペダルをソロスタイルプレイ機能にできない。	ソロスタイル機能をオンにしていない。	ソロスタイルプレイ機能をオンにした時のみ、選択および機能させることができます。
押さえた鍵盤の数だけ音が出ない	同時に鳴らせる音数には制限があります。 (→49ページ参照)	制限数以上の音は、前の音を消して後の音を鳴らすしくみとなっています。
選んでいない音色で鳴る。	ピアノABC機能またはスプリット演奏機能をオンしている。	低音部の音色は高音部の音色と異なります。
左側のペダルを踏んでも、ソフト効果がかからない。	別の機能になっている。	レフトペダルファンクションボタンを押して、ソフトのランプを点灯させてください。

●アフターサービスと保証

サービスのご依頼は、お買い上げ店へお申し付けください。

- 本機の保証は、保証書によりご購入から満1ヵ年です。
(日本国内のみ有効)
- 保証期間の1ヵ年を過ぎましても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か右記、お近くのサービス網宛お問い合わせください。

■お買い上げ店による修理調整

故障の場合は、お買い上げ店にご連絡ください。責任を持って修理調整をいたします。

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号などをハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(楽器の具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならないようなときにお客さまにご迷惑をおかけしないですみます。)

ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(修理受付および修理品お預り窓口)

北海道サービスセンター	〒064 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内 TEL. 011(513)5036
仙台サービスセンター	〒983 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL. 022(236)0249
新潟サービスセンター	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F TEL. 025(243)4321
東京サービスセンター	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F TEL. 03(3255)2241
首都圏サービスセンター	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL. 044(434)3100
浜松サービスセンター	〒435 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内 TEL. 053(465)6711
名古屋サービスセンター	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F TEL. 052(652)2230
大阪サービスセンター	〒565 吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内 TEL. 06(877)5262
神戸サービスセンター	〒650 神戸市中央区元町2-7-3 ヤマハ(株)神戸店内7F TEL. 078(321)1195
四国サービスセンター	〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ(株)高松店内 TEL. 0878(22)3045
広島サービスセンター	〒731-01 広島市安佐南区西原2-27-39 TEL. 082(874)3787
九州サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL. 092(472)2134
(本社)	
カスタマーサービス部	〒435 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内 TEL. 053(465)1158

北海道支店/〒064 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター
鍵盤推進課 TEL.011(512)6114

仙台支店/〒980 仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命仙台青葉通りビル
鍵盤推進課 TEL.022(222)6149

東京支店/〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル
鍵盤推進課 TEL.03(3572)3140

関東支店/〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル
鍵盤推進課 TEL.03(3572)3120

名古屋支店/〒460 名古屋市中区錦1-18-28
鍵盤推進課 TEL.052(201)5140

大阪支店/〒542 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館
鍵盤推進課 TEL.06(252)7541

広島支店/〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
鍵盤推進課 TEL.082(244)3748

九州支店/〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
鍵盤推進課 TEL.092(472)2152

鍵盤営業本部

電子楽器営業部

クラブノーバ営業課/〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル
TEL.03(5568)2932

*住所および電話番号は変更になる場合があります。